



第 100 号

公益財団法人 黒田奨学会

# 総裁 黒田長高様 近況報告

## 「黒田家墓所について」

### 総 裁 黒 田 長 高



令和7年は黒田家関係にとっては改革の年でありました。東京都立青山霊園の黒田家墓所（第11代黒田長溥公以降の当主と家族が埋葬されている）の一部（1189.80m<sup>2</sup>のうち250m<sup>2</sup>）を都に返還することにしたのです。この墓所の使用料が高額で、また返還する部分については昔からこの墓所にとって鬼門であると伝えられていたため、その部分には明治時代の墓所使用開始以来どなたも埋葬されておられません。私にとっては、今まで放置していたのが無駄としか思えませんでした。一方、当霊園では返還する場合には更地にして返還しなければならないことになっております。この返還予定区画には大きな樹木が林立しており、それらを除去して更地にするには相当な費用が掛かることがわかり愕然としました。それでもこの一画を返還する必要が有るのかと迷いましたが、結局後世の為にも返還しておいた方がよいという結論に達し、早速以前より墓石等でお世話になっている業者に見積もりを依頼し、実行することになりました。そして令和8年になって着工し、2月に完工しております。瑞藤会員の方で東京研修会の際に、この黒田家墓所に参拝に来られた方もおられると思います。年によっては、敷地内の紅葉が真っ赤に染まっていたこともあるかと思いますが、残念ながらその紅葉も見られなくなってしまっております。



青山霊園黒田家墓所の返還された一画

また東京の黒田家墓地といえば、江戸時代からのものとして、渋谷区広尾の「祥雲寺」、港区南麻布の「天真寺」に黒田家の墓所があります。この2つの寺は福岡市内の崇福寺と同じ臨済宗大徳寺派の寺院となっております。このうち祥雲寺には黒田長政公の立派な墓があり、渋谷区の文化財になっております。この墓は崇福寺に埋葬されている長政公のご遺骨を分骨されたものと思われます。長政公の墓の周りには黒田家関連の墓が雑然としており、どなたの墓かわからなくなっている状態でした。祥雲寺の住職の方針として、これを長政公の周りにきれいにまとめ、寺の参拝者の方々にも見てもらうように改葬するという事業を3年ほど前から寺の負担で施工しており、この春によりやく完工しております。長政公の墓自体は動かすことはせず、隣接の秋月藩初代黒田長興公の墓から秋月藩歴代当主の墓を移設し、きれいに整列され、改装設置されており、どなたの墓かわかるよう銘板を作成して設置されております。このような形で黒田家墓所の改葬をして頂いた祥雲寺には感謝の意に堪えません。福岡藩の方は当主の墓は長政公のみで、長政公正室・長政三女・2代目忠之公の室や第6代継高公室等女性や子供の墓のみとなっております。ちなみに天真寺には第5代宣政公および正室、第10代斉清公および正室、忠之公後夫人、光之公正室の墓が中心に埋葬されております。こちらの墓所は2か所に分かれており全部で14のお墓があります。その維持管理は黒田家の負担となっており、この先も問題なく維持できるか黒田家にとっては大きな不安の種となっております。



祥雲寺にある黒田長政公のお墓

さて、令和7年度の藩校サミットは福岡県朝倉市で開催されました。以前からその開催を望んでいた秋月黒田家第15代当主黒田長幹氏<sup>ながもと</sup>をはじめその関係者は大変な喜びだったようです。その開催地朝倉市は以前当奨学会の方々と車で訪問したことがあります。福岡県であっても福岡市内からは少し離れており、あまり便利な場所ではないのではと思います、行き方に少し不安を感じておりましたが、主催者側の旅行会社の手配により、問題なく訪れることができました。東京からの参加者は私たちのほかに何組かおりましたので、福岡空港からチャーターバスで朝倉市に向かい、大会前日に到着、宿泊しました。当日は例年通り藩主会議、昼食後に藩校サミットが開催され、今回は38藩の旧藩主子孫の方等が参加し、将軍と殿さまの座談会、秋月三名君座談会、出席旧藩主紹介、朝倉宣言発表等があり、その後場所を変えて参加者お楽しみの交流会へととなり、皆さんそれぞれ料理等を楽しんだようでした。この交流会は毎年大変な盛り上がりがあり、出席者の方々は大変喜んでいるようでした。翌日のエクスカージョンは3コースありましたが、私たちは秋月城跡のコースを選びました。このコースでは抱え大筒（大型の鉄砲）の演武があり、その迫力に見学者は驚かれています。この抱え大筒は福岡市内にもその射手がおりましたが、市内では諸事情でその実演はできなくなっているそうです。私もかなり前に市内の光雲神社<sup>てるも</sup>での催しで拝見したことがあります。演武後にその大筒を持たせてもらいましたが、相当な重量で果たして実際にこんなものを使っていたのか感心してしまいます。

年が明けて令和8年になると、例年通り2月に東長寺での忠之公法要、そして3月には如水公法要、新奨学生の入会式、卒業記念会へと続きます。今回は崇福寺での如水公法要に今年度奨学会卒業の18名もの卒業生に参列していただきました。その後の卒業記念会では、卒業生一同より花束と記念品を頂きました。その記念品は、後日開けてみたところ、卒業生一同からの感謝の寄せ書きであることが分かり、思いがけないことに驚くとともに、有り難く頂戴いたしました。また翌日には、新奨学生20数名と共に糸島の櫻井神社へ参拝にバスで向かいました。丁度櫻井神社の大神宮本殿が福岡県の有形文化財に指定されたばかりで、参拝後神職の方の案内もありタイミングよく拝観できました。次に福岡市内の紅葉八幡宮に向かいました。参拝の後、宝物殿では、第3代光之公にゆかりのある三人の藩工による刀剣が宮司の方のご配慮で展示されており、鎧兜とともに、新奨学生の何人かも興味深く拝観しておりました。神社訪問前には、すぐ近くの高取焼の亀井味楽氏を訪問し、街中にある現在の味楽窯の維持保全に苦労しているという話も伺いました。その後、私どもは帰京の為空港に向かいました。

私事ですが、2月にあるグループで2泊のスキーに行つてまいりました。このグループは高齢者が多く、皆さん大丈夫なのかな等と思っていましたら、皆さんとてもお元気に滑っておられるのを拝見し、日頃ジムに通っている私の方が、かえって気後れしてしまうほどでした。また福岡でも、高齢者の方がとてもお元気で、活発に体を動かしていらっしゃるご様子に、驚きつつ感心しております。私自身、何とか元気に体を動かし、健康には注意して過ごしております。瑞藤会の皆様も健康管理には充分気を付けてお過ごしいただき、訪福の際には元気な顔を拝見できるのを楽しみにしております。



全国藩校サミット朝倉大会（於秋月）



抱え大筒の演武（於秋月）

# 目 次

総裁 黒田長高様 近況報告 「黒田家墓所について」

総 裁 黒田 長高

## 黒田奨学会 OB・OG 通信

「思い出すこと」

元理事 久保田 康史 …… 1

「21 世紀の黒部ダムをつくる ～将来の夢を語ろう～」

株式会社 Yanekara 代表取締役 松藤 圭亮 …… 3

巣立ちの日に ― 感謝を胸に ― …… 7

新奨学生より …… 18

## 海外留学&研修報告

「キリマンジャロ登頂体験記 ― 七大陸最高峰の一つに挑む ―」

九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻 博士 2 年

中橋 凜太郎 …… 30

## 国際学会参加報告

「アメリカでの学会発表を経て」

東京大学大学院 工学系研究科 物理工学専攻 修士 2 年

松田 仁 …… 33

「IEEE Big Data 国際学会での研究発表と学び」

東京科学大学 工学院 経営工学系経営工学コース 修士 2 年

實淵 有佑 …… 34

「GREENIE 2025 参加報告」

九州大学大学院 経済学府 修士 1 年 松瀬 真未 …… 35



## トピックス

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| 黒田奨学会創立 110 周年記念「紀要」の発行                      | 36 |
| Outstanding Presentation Award Gold Prize 受賞 | 37 |
| 国内 3 学会における優秀発表賞の連続受賞                        | 37 |
| 九州大学山川賞受賞                                    | 38 |

## 行事報告

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 令和 7 年度 奨学生卒業記念会          | 40 |
| 令和 7 年度 学部卒業生・大学院修了生の進路一覧 | 41 |
| 令和 8 年度 奨学生入会式            | 42 |
| 令和 8 年度 新奨学生名簿、奨学生地区別分布   | 43 |
| 令和 7 年度 黒田家法要・ミニ研修会       | 45 |
| 令和 7 年度 九州地区研修会 後期第 2 回   | 46 |
| 令和 7 年度 関東地区研修会           | 49 |

|                     |    |
|---------------------|----|
| 公益財団法人黒田奨学会への寄付御礼   | 56 |
| 令和 7 年度奨学会基金への寄贈者一覧 | 56 |
| 令和 8 年度 黒田奨学会行事予定   | 57 |
| 編集後記                | 58 |

### 「思い出すこと」

元理事 久保田 康史

1964年（昭和39年）4月に大学に入学した私は、同時に黒田奨学会から奨学金をいただくことになった。

当時は福吉町という住居表示だったと思うが、そこに黒田家のお屋敷があり、2ヶ月に一回お伺いして奨学金をいただく制度だったように思う。

お屋敷にお伺いすると、執事という方がいらした。さすがに元大名家というのは違うものだな、と感じた記憶がある。

当時の当主は、黒田家としては14代目の黒田長禮（ながみち）様であった。奨学金をいただく際であったか、或いはご挨拶にお伺いした際であったか、一度お会いしたことがあるが、小ぶりの上品なお顔の方であった。

後年、たまたま東海道本線の湯河原駅で元首相の細川護熙氏をお見かけしたことがあるが、やはりお鼻が小さくて上品な顔立ちであった。長い間、貴族として生活が続けていくと同じような上品なお顔ができ上っていくものかと思った。

長禮様は鳥類の研究家としても有名で、戦前は海軍の軍艦で南の島に鳥類の研究に赴かれたという話を聞いたことがある。

さすがに元52万石のお殿様というのは豪勢なものである。長禮様は鳥類の研究家として名声が高いが、その他に魚類、哺乳類についても研究をなさっていたようで、後に、黒田奨学会が発行人となって4冊の論文集が出版された。私は、ちょうどそのころ理事をつとめていたので、その御縁で「黒田長禮博士論文集Ⅰ魚類」という立派な御本を頂いた。750頁余りの分厚い御本であるが、素人の私には猫に小判である。しかし貴重な記念の品なので、本棚の真ん中に飾ってある。

当時、奨学金は月額6000円だったと思うが、貧しい学生にとっては貴重なお金であった。

また、貸与ではなく、給付というのうれしい条件だった。お蔭で大学4年間は勉強に専念することができた。運の強さも手伝って在学中に司法試験に合格し、2年間の修習を経て、1970年から弁護士の登録をし、今日まで56年余り、比較的恵まれた、また平穏な生活が続けてこられたのは、奨学金のお蔭である。

黒田家と黒田奨学会には、深くお礼を申し上げる。

大学を出た後は黒田奨学会とは余り縁がなかったが、40代に入って故横大路俊一理事が退任された後の在京理事を仰せつかった。当時の写真を見ると、最弱年の若造の私が写っているが、今や80歳となり、元理事としては馬頭先生に次いで2番目の高齢となっている。誠に光陰矢の如しである。

奨学会では、奨学生の選定を始め、会の運営全般はほとんど福岡の本部で行われるので、在京理事の仕事はそれほど多くはない。

当時の各務理事長からは、「できるだけ在京の学生と懇親の機会を持って下さい。」と言われていた。というのも、黒田奨学会はこの種の学術系の財団としては財源が豊かな方で、各務先生としては、日頃儉約した生活をしている奨学生に、時には美味しいものを食べさせようという親心であったと思う。

勿論、「懇親」というのは、私の得意分野であったから、年2回、会を開いていた。

当日は、まず虎ノ門にあった私の事務所に集合して、コーヒーとケーキで懇談した後、新橋駅前の「新橋有薫」という店で懇親会を開くことがほとんどだった。この店は、福岡の久留米から現在の御主人



の両親が上京して始めた店で、今では「高校ノート」という全国の高校の寄せ書き帳が3000冊（つまり3000校）以上あり有名である。

この店は出が福岡なので、がめ煮とか新鮮な魚の刺身など、懐かしく故郷を思い出せる食べ物が並んでいる。私はここに来ると、おきゅうとを食べるのを楽しみにしていたが、原料のおきゅうと草が採れなくなってしまったせいか、いつの間にかメニューから消えてしまって残念である。

当時は未成年者にお酒を提供することについて現在ほどうるさくなかったから、希望者にはお酒も出した。奨学生は久しぶりに会うせいもあり、すぐに打ち解けた懇談の場となった。

締めは博多ラーメンかうどんで腹を満たした後、次は当時コリドー街にあったワインバーに席を移したこともあった。

私は法学部出身なので、文系の学生の話にはまあ対応できたが、理系の奨学生の話の聞いたり、アドバイスをしたりするのは難しかったので、東大理学部出身で通産省（当時）に勤務されていた野中哲昌氏に御参加いただいたこともあった。

野中氏は、その後、在京理事に就任され、私が理事を退任した後は引き続き懇親会を催していってやる。最近是在京の奨学生も増えたので3回に分けているということで、私の時代よりも丁寧に面倒を見ていただいているようである。

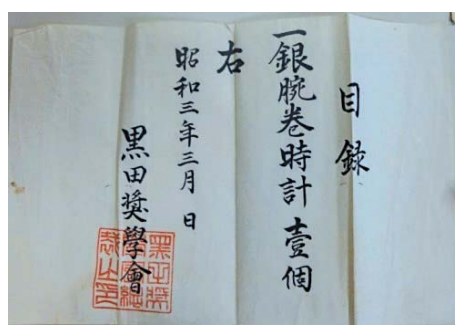
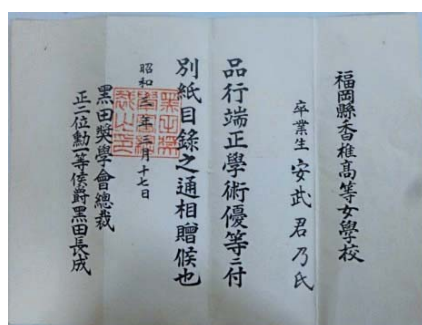
在京理事にとって、もう一つ大事な仕事は、毎年12月初旬に開かれる研修会に参加することであった。研修会自体は本部の教育担当が中心になって企画されるので、在京理事の仕事は当日参加して奨学生の発表を聞き、時には多少の質問をするくらいである。文系の奨学生の発表はまあ理解できたが、理系の学生の発表は正直に言うとはほとんど理解できなかった。しかし、若い学生諸君が目輝かせて自分の研究発表をする姿はとても感動的で、私にとっても気持ちのいい時間であった。

私の母、君乃（旧姓安武）は、福岡県粕屋郡新宮村の出身で、香椎高等女学校から福岡女子師範に進み、その後、しばらく小学校の先生をしていた。母が亡くなってから兄が遺品を整理していたところ、2枚の証書と腕時計をみつけた。1枚の証書には、「福岡県立香椎高等女学校 卒業生 安武君乃 品行端正学術優秀ニ付前紙目録之通相贈候也 昭和3年3月17日 黒田奨学会総裁 正2位勲1等 侯爵黒田長成」とあり、もう1枚には、「目録 一 銀巻時計 壹個 右 昭和3年3月 日 黒田奨学会」とあったという。

兄の話によれば、女学校時代、成績最優秀の卒業生に黒田家から腕時計が与えられる慣行があり、それを頂いたと母が語っていたという。（この腕時計と目録は、その後、黒田奨学会に陳列品として渡されているとのこと）

つまり私共は、親子2代にわたって、黒田家及び黒田奨学会の御恩を受けているわけである。

改めて、黒田家と黒田奨学会に心からお礼を申し上げます。



## 追記

黒田奨学会から、瑞藤会会報100号に寄稿を求められましたので、一文をしたためました。何分、昔のことであり、記憶だけで書きましたので、間違いや不正確な部分もあることとっております。ご容赦願います。

# 「21世紀の黒部ダムをつくる ～将来の夢を語ろう～」

株式会社 Yanekara 代表取締役  
松藤 圭亮

この内容は、2025年10月17日、佐世保市立日宇小学校の6年生の児童向けに、同校のキャリア教育の一環として講演した記録です。



## はじめに：今日のゴールは「夢を語り合うこと」

皆さん、こんにちは。よろしくお願いします。今日はキャリア教育の講演会ということで、職業についてお話をさせていただきます。小学生や中学生だった頃の話をするので、しっかりメモをとって聞いてください。

今日の話のタイトルは、「21世紀の黒部ダムをつくる～将来の夢を語ろう～」です。この「21世紀の黒部ダムをつくる」というのは、私自身の将来の夢です。今日のゴールは、私が夢を語るのを聞いて、皆さん一人一人にも自分の将来の夢を考えてもらい、それを周りの人に語ってもらうことです。

今日の流れとしては、まず自己紹介から始めて、専門である電気の実験をし、今経営している会社が何をやっているかを話し、最後に皆さんに夢を語ってもらう時間を作りたいと思います。

## 原点：太陽エネルギーの力に気づいた夏休み（小学校時代）

私は14年前、原口先生が担任をしていた佐世保市立南風小学校の6年生のクラスにいました。今日、こうして先生の教え子の皆さんの前で話してできることを、嬉しく思っています。

小学校6年生の時、原口先生のクラスで面白かった思い出があります。それは夏休みの自由研究です。私は「ソーラークッキング」、つまり太陽の熱で料理をする実験を選びました。皆さんの手元のプリントにある通り、太陽の熱でゆで卵を作ろうとした実験レポートを書いています。ゆで卵は大体70度くらいのお湯に入れておくことができるのですが、それを自宅のベランダでやろうとしました。夏はとても暑いですね。100円ショップで熱を集めるためのパネルや缶、瓶などを買ってきて、どうすれば熱が貯まるか自分で考えてベランダに置きました。結果、ゆで卵だけでなく、焼き芋やパンケーキ、コーヒーなども作ることができました。何時間かベランダに置いておくだけで卵が固まったり料理ができたりすることに、「太陽の熱ってすごいな！」と感動しました。もっと頑張れば、一人分ではなく家族全員の分、さらには学校全体の分まで熱を作れるようになるかもしれない。そんな風に太陽エネルギーに興味を持ったのが、私のすべての始まりでした。

## リーダーの本質を学んだ「劇の監督」（中学校時代）

中学校は長崎の中学校に通いました。この時期に経験した「劇の監督」が、私の人生や今の将来の夢に大きな影響を与えています。



毎年、文化祭で出し物をするのですが、その年は先生が「今年はみんなで自由に考えていいよ」と言ってくれました。学年110人のうち、12人くらいが自分の案を持ってきました。ハリーポッターの劇やダンス大会、ディズニーの劇など様々な案がある中、なんと私の案が通ってしまったのです。

私の案は、「誰も知らないオリジナルの劇をやろう」というものでした。500年前の大航海時代、海賊たちが活躍する物語を、台本から自分たちで考えて作ろうという内容です。みんなが「面白そう!」と言ってくれて、言い出しっぺの私が監督を務めることになりました。

それまで監督やリーダーなんてやったことがなかったので、楽しみな反面、「本当にできるのかな」と不安な気持ちでスタートしました。そこで学んだリーダーの役割は、「無いものを集めてくること」でした。

- **台本と仲間：** アイデアしかなかったので、まずは協力してくれる友達3人に夏休みも学校に来てもらい、一緒に台本を書きました。
- **衣装：** 中学生でお金もなかったので、長崎の商店街にある洋服屋さんへ行き、「学校で劇をやるので、使わなくなった布や端切れをタダで譲ってください」とお願いしに行きました。不安でしたが、店長さんたちは思った以上に快く譲ってくださいました。
- **音楽：** 学校にある10代ほどのパソコンすべてにソフトウェアを入れ、自分たちで作曲して作りました。

準備には半年かかりました。途中、失敗もありました。夏休み明けから練習を始めたのですが、私は台本を覚えさせることに必死で、みんなの体調を気にかけていませんでした。締め切った体育館で夕方まで練習を続け、熱中症で座り込んでしまう人が出た時、先生や友達から「監督は練習の中身だけでなく、周りの環境も見なきゃダメだよ」と厳しく叱られました。

また、音楽担当の友達と意見が合わず、本番3日前に1時間分の音楽データをすべて消されてしまうという事件も起きました。私は自分の考えを押し付けすぎて、相手の能力や想いを尊重できていなかったと反省しました。最後は話し合っただけでデータを復活させてもらい、本番は大盛況で終わりました。この時みんなで笑いながら撮った写真は、私の宝物です。今の社長としての仕事も、この時と同じです。無いものを集め、みんなが活躍できる環境を整える。それがリーダーの役割だと確信しています。

## 大学での研究と「インバータ」という魔法の技術

太陽エネルギーへの情熱は続き、「同じ太陽の光から、一番多くの電気が取れる太陽電池を作りたい」という思いで東京大学に進みました。

大学1年生の時、20人以上の教授に会いに行きました。教授たちは忙しそうに見えても、将来研究室に入ってくれるかもしれない学生にはとても優しく話してくれます。しかし、そこで気づいたのは、今の太陽電池の研究が「効率を20.1%から20.2%に上げる」という、非常に細かい数字を突き詰める段階にあることでした。私はもっと、社会を根本から変えるようなことがしたいと思ったのです。

ここで、電気の仕組みを少しお話しします。（オシロスコープを使ってコンセントの電気を見せる）この赤い線を見てください。波打っていますよね。これを「交流」と言います。遠くにある発電所で、燃料を燃やして蒸気を作り、巨大な発電機を回しているから、こういう波の形になります。

一方で、皆さんが持っている電池の電気は波がない「直流」です。私たちが今会社で扱っている「蓄電池」の中にも、何も回っているものはありませんが、この蓄電池から扇風機や冷蔵庫を動かすことができます。なぜ回っていないのに家電が動くのか。それは「インバータ」という技術を使って、電池の電気を「交流」に作り変えているからです。

今の日本の電気は、海外から石油や石炭を輸入し、それを燃やして作られています。これは地球温暖化の原因にもなります。でも、みんなが太陽電池や蓄電池を、スマートフォンと同じような感覚で一人一人が持つようになれば、海外からの燃料に頼らずに暮らせるようになります。それを実現するのが、私の夢です。

## 21世紀の黒部ダムをつくる（株式会社Yanekaraのビジョン）

私が経営している「株式会社Yanekara」のビジョン、それは「21世紀の黒部ダムをつくる」ことです。

皆さんは60年前に作られた「黒部ダム」を知っていますか？ 私は小学校6年生の時に原口先生のクラスにあった漫画を読んで、黒部ダムの凄さを知りました。

- **20世紀の黒部ダム**：深い山奥に、コンクリートや石を積み上げる土木技術を駆使して、1箇所に集中して作られました。工事は非常に過酷で、100人以上の犠牲者が出るほどの大変なプロジェクトでした。
- **21世紀の黒部ダム**：水ではなく太陽電池と蓄電池を使い、コンクリートではなくインバータ技術を使います。1箇所に巨大なものを作るのではなく、何万人もの人がそれぞれの家に設置した小さな電池を繋ぎ合わせます。

「塵も積もれば山となる」の言葉通り、一人一人の小さな電気が集まれば、巨大なダムを超える大きな電源になります。そして一番大事なのは、この21世紀のダムは、誰も傷つけることなく、コンセントにプラグを差し込むだけで作っていけるということです。

## 最後に：夢を言葉にすれば、世界が動き出す

私が今日、皆さんに一番伝えたかったのは、「将来の夢を語ろう」ということです。

なぜ夢を語る必要があるのか。それは、一人の力では達成できないような大きな夢でも、言葉に出して言い続ければ、必ず応援してくれる人が現れるからです。「その夢を応援したいから投資をしよう（お金を出そう）」 「その製品が気に入ったから買おう」 「その会社の夢が好きだから、一緒に働きたい」 …

私も今、まさに夢を語ることで、いろんな会社から転職してきてくれた仲間と一緒に働いています。毎日忙しくて目の前の仕事に追われそうになっても、「私たちは21世紀の黒部ダムをつくるために集まっているんだよね」と思い出させるのが私の役割です。

皆さんも、自分の夢を具体的に書いて、周りの人に話してみてください。そうすれば、周りの人はあなたをどう手伝えればいいのか、どう応援すればいいのかが分かるようになります。自分のやりたいことをみんなが手伝ってくれて実現できる。これ以上素晴らしいことはありません。

私も21世紀の黒部ダムをつくるために頑張ります。皆さんも、自分自身で発電したり蓄電したりする未来がやってくるのを、ぜひ応援してください。今日は本当にありがとうございました。

## 質疑応答



Q：一番大事にしていることは何ですか？

A：「21世紀の黒部ダムをつくる」という言葉を毎日言うことです。今、いろいろな会社から社員さんが転職してきて一緒に働いていますが、毎日すごく忙しいです。目の前の仕事をこなしていると夢を忘れそうになるので、それを思い出させるのが私の一番大事な役割です。

Q：劇の監督をして大変だったことは？

A：3日前に音楽データが消された時は本当に大変でした。でも、自分がうまくいったとしても、みんなが助けてくれたからだと感謝することを学びました。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」ということです。

Q：社長として意識していることは？

A：夢を語ること、そして今持っていないものを、いろいろな人から集めてくることです。

Q：今の事業を始めて後悔していることはありますか？

A：後悔はありません。ただ、その時代時代によって必要なことは違います。もし70年前、100年前に生まれていたら、今の私もダムを作っていたかもしれません。そういう人たちにすごく憧れますし、今の時代にこの夢を語れることに感謝しています。

## 巣立ちの日に ― 感謝を胸に ―



### 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 博士後期課程修了 稲富 翔伍

突然ですが、以下は修士1年の冬（2021年11月）に私が黒田奨学会宛に送ったメールの抜粋です。

「最近就職活動をする中で、自分が本当にやりたいことは何か悩んでおります。確かに、私は土木を専攻していますが、扱っている技術は情報系のものであり、必ずしも土木に留まる必要はないと感じます。また、イノベーション教育プログラムを受けたことで、新しいアイデアを発想することや経営コンサルタントなどにも興味が湧いている状態です。学業や研究では社会貢献を軸に考えてきましたが、いざ就職のことになると軸がぶれてしまっています。博士に進むとしても、まずは一度社会に出てみたいという気持ちもあり、八方塞がりのような気分です。何か良い解決策はないものでしょうか。」

この件に関して個人面談（当時ポストコロナ禍でしたのでオンライン面談）を設定いただき、当時の伊達理事長や岡本先生に激励をいただきました。そこでは、目の前のことに集中すると道が見えてくるという結論に至りました。とにかく動くことが大事だと考え、修士2年の春にかけて就活インターンシップに参加しましたが、やはり博士課程に進学したいという気持ちが募りました。

その後、博士課程を卒業し大学教員になるという進路を歩みます。黒田奨学会には9年間にわたり多大なるご支援をいただきました。奨学会では、給付型奨学金に加え、長高様や理事の皆様方による精神的なご支援もいただきました。思い悩んでいた私にこのような面談の機会を設けていただいたことが、9年間で最もありがたいと感じた瞬間でした。同期の仲間や他分野で熱心に勉学に取り組む先輩・後輩にも巡り合うことができました。良い意味で、学部入学当初には思ってもいなかった方向へ人生が動かされたように感じます。ぜひ現役奨学生の皆さんも、思い悩むことは多いと思いますが、この恵まれた環境を最大限生かして前へ進んでいってください。

### 九州大学大学院工学府応用化学専攻 博士後期課程修了 高岡 祐太

このたび、九州大学大学院を修了するにあたり、これまでの学生生活を振り返りますと、多くの方々の支えの中で研究に打ち込むことができたことを、あらためて深く実感しております。とりわけ、黒田奨学会より修士課程から博士課程に至るまで長期にわたり温かいご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

私にとって大学院での年月は、研究者としての基礎を築き、自分の進むべき道を確認する大切な時間でした。学部4年生の頃から、持続可能な社会の実現に貢献したいという思いのもと、二酸化炭素の変換に関する研究に取り組んでまいりました。修士課程では、研究成果を一つの形としてまとめ、国際誌に発表することができました。また、その成果が評価され、修士課程を一年早く修了するという貴重な経験にもつながりました。

一方で、私の家庭は経済的に余裕がある状況ではなく、大学院進学にあたっては奨学金の借入に加え、長時間のアルバイトを行う必要がありました。そのような状況の中で、黒田奨学会のご支援は、私にとって非常に大きな支えとなりました。経済的な不安が軽減されたことで、アルバイトに追われることなく、研究、論文執筆、学会発表に真摯に向き合うことができました。これは単に時間を確保できたというだけでなく、自分の将来に対して前向きな気持ちを持ち続けるうえでも、かけがえのない支えであったと感じております。



博士課程に進学してからは、より高い水準の研究成果が求められる中で、国内外の学会発表や論文執筆、博士論文の作成に取り組んでまいりました。思うように結果が得られず苦勞することもありましたが、修士課程から継続してご支援いただいているという事実そのものが、大きな励みとなりました。長い期間にわたり見守っていただけたことは、経済的援助にとどまらず、「研究を続けてよいのだ」と背中を押していただいているように感じられました。

今後は、大学院で培った知識と経験、そして多くの方々への感謝の気持ちを忘れることなく、研究を通して社会に貢献できるよう努めてまいります。また、将来的には教育にも携わり、次世代を担う人材の育成にも貢献したいと考えております。修士課程から博士課程修了まで支えてくださった黒田奨学会の皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

### 東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻 修士課程修了 大串 裕紀

この度東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻の修士課程を修了いたしました大串裕紀と申し上げます。学部生の頃から6年にわたり、黒田奨学会の皆様には多大なるご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。無事修了することができたのは経済的な不安を抱えることなく学業と研究に専念することができたからこそです。

4月からはEYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社というコンサルティング会社で特に九州のDX（デジタルトランスフォーメーション）支援に携わる予定です。大学の専攻の数学とは少し離れた分野になりますが、大学で身に付けた知識と経験、そして何よりも奨学会を通して培った学びを発揮して、気持ちを新たに取り組んでいく所存です。

奨学会からは多くの貴重な学びの機会をいただきました。特に研修会での厳しくためになるご指導はその最たるものです。この原稿を書いている今、過去の自分の発表スライドを見返してみると発表当時にいただいたご指摘が頭にありありと浮かび未だに耳が痛くなる思いです。発表内容の選定から良いスライドの作成方法、伝わりやすい発表方法など多くのことを教えていただきました。また、専門が異なる方々にどのように自分の専門を的確に伝えるかを考える貴重な経験となりました。特にこの点は毎年苦心しており、数学という実体のないものをいかにして伝えればよいのか苦勞したことを思い出します。結果として、毎年多くの方に理解しづらい発表になってしまったことは大いに反省しております。今でもプレゼンテーションに自信を持つことはできないですが、これらの学びを活かして今後も練習あるのみと精進していきたいと考えております。

改めてこれまでの温かいご支援に深く感謝申し上げます。黒田奨学会の一員であったこと、そして瑞藤会の一員であることを誇りに思いながら社会人として成長していきたいと考えております。最後になりましたが、黒田奨学会の皆様のますますのご発展とご健康を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

### 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 修士課程修了 榎藤 洸人

黒田奨学会の奨学生として内定をいただいた当時、私が畏れ多くも黒田家に抱いていた印象というのは、2014年に放送されていたNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」における黒田如水（官兵衛）公の活躍のほかにありませんでした。物語の最初は明るいキャラクターであった官兵衛が、摂津（現在の兵庫県伊丹市）のお城に幽閉され、劣悪な環境で1年間を過ごすにつれて次第に明るさを失い、非情なところをもみせるようになります。今振り返ると、恐ろしいと同時に、官兵衛の忍耐力を含む人間的な魅力を教えてくれるドラマであったと感じます。そして、そのような歴史上の人物に端を発するつながりが、現代に至り、私個人の生活をも支えてくださったということに対して、畏敬の念と大きな誇りを覚えます。

私は、大学・大学院の計6年間、主に地質学を学び、後半の3年間は南極の岩石に関する研究に費やしました。岩石をどのように研究するかというと、まず、南極から採取されたサンプルをとにかく薄くしてプレパラートに貼り付けます。すると岩石が光を透過させ、岩石組織の観察ができるようになります。そうした観察や、鉱物の化学組成を機械で定量的に分析することを通して、研究を進めていきました。研究をはじめたばかりのころは、思うような成果がでない日々が続きましたが、ある時期から連続して発見が得られるようになり、最終的には、提出した修士論文を専攻内で表彰していただけるまでになりました。私も、比較すれば全くもってほんのわずかではありますが、囚われの身となった官兵衛のような忍耐力を発揮することができたのかな、と思います。最後になりましたが、この間たいへんお世話になった黒田奨学会の理事の方々、事務局の方々、そしてなにより黒田長高様に、深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

### 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 修士課程修了 佐々木 綾太

この春、東京大学大学院を卒業して株式会社リクルートにエンジニアとして就職いたしました、佐々木綾太と申します。私は大学・大学院で多くの事を学びました。その一部を紹介いたします。

大学1年生の時、僕は3人部屋の寮に入り、濃い人間関係の中でコミュニケーションや対人関係、特に人には色んな人がいて、どんな人でもある程度分かり合えることを学びました。また、その人間関係のおかげで、ファッションを学びました。

大学2年生では、コロナ明けで寮外の人とも人間関係を広げながら、ある成功体験を積みました。それは、大学で週15時間かかるレポートを課す授業があったのですが、その改善のための有志活動をしたことです。しかし、その成功体験の中で挫折もあり、そこからの立ち直りも経験しました。それらの経験は今でも私の自信を支えています。また、他に酒やWeb技術を学びました。

大学3年生では英語の勉強や親戚への訪問などを目的にフィリピンに友達と1か月滞在しました。そこで、フィリピンの文化や現地の人の温かさに触れ、感銘を受けました。また、海外から見た日本について考えることができ、意外と英語は喋れるということを知りました。

大学4年生ではベンチャーでインターンをし、ベンチャー企業や、そこで自分がどう振舞うかについて理解しました。また、技術的にも大きく成長しました。

大学院1年生では元Googleのエンジニアが運営するコミュニティに入り、エンジニアリングの本質を理解しました。また、就活を経てそのノウハウが身につき、その考え方は転職活動や普段のコミュニケーションで活かせることに気付きました。

大学院2年生では5時起きを始め、無駄に過ごす時間が無くなりました。そして、毎日3km走ったり、ジムに通うようになったり、運動面のコミット量が人生最高値を超えました。他にもYouTubeや本から知識を吸収することの重要性を知るなど、様々な学びを得ました。

金銭的な余裕がなく、授業料や生活費を全て自分で工面しなければならなかった私にとって、黒田奨学会はとても心強い援助をくださいました。様々な人と関わったり、様々な企業でインターンをしたり、海外に1ヶ月滞在してみたり大学と大学院は様々な面で価値観の変容が起こった学びの多い期間でした。6年間全てが今の私を作るに必要不可欠であり、それを可能にして下さった黒田奨学会に心より、深い感謝を申し上げます。

### 東京科学大学工学院経営工学系 修士課程修了 實淵 有佑

この度、東京科学大学工学院経営工学系の修士課程を修了いたしました。大学入学時から6年間、多大なるご支援をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。また、奨学金のご支援だけでなく、母が大病を患った際にはたくさんの精神的サポートも賜りました。さらに、様々な面でのご指導ご鞭

捷に加え、毎年のプレゼンの機会、高い志を持った奨学生との繋がりもいただき、感謝の念に堪えません。

学部時代は、興味の方向性を定めるまでに時間を要しました。入学当初は機械工学に関心を持っていましたが、体験授業を通じて経営工学へと進み、その中で数理最適化やデータサイエンスという自分の核となる分野に出会うことができました。特に修士課程の2年間は、データ解析コンペティションを中心に、多くの挑戦を重ねた期間となりました。約1年間にわたる大規模なコンペを2度経験し、最終年度にはチームを牽引する役割も担いました。自身の研究と並行してコンペに取り組み、国際学会への挑戦も果たしました。これらの活動は、就職活動とも時期が重なる非常にタイトなスケジュールの中でのものでした。本来アルバイトに充てるべき時間を研究・コンペ・学会発表に集中して注ぐことができたのは、ひとえに奨学会のご支援があつてこそです。プレッシャーと悔しさを伴うことも多くありましたが、最終的には納得のいく形で締めくくることができました。この経験を通じて、チームでの分析力、幅広い専門知識、そして国内外の学会における発表経験を積むことができました。自身の家庭環境を考えれば、ご支援なくしては到底実現し得なかった経験の数々を、この6年間で積み重ねることができました。心より感謝申し上げます。

私はこの春から、合同会社デロイトトーマツのデロイトアナリティクス部門に所属し、データサイエンスを駆使するコンサルタントとして働きます。高度なデータ分析技術を駆使して企業の意思決定を支援し、複雑化する社会課題の解決にデータサイエンスの側面から貢献できるよう努めていきます。コンペや研究を通じて培った経験を武器に、これからも学び続ける姿勢を忘れずに、いただいたご恩を社会貢献という形で還元していく所存です。最後に重ね重ねになりますが、6年間という長きにわたり多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。

## 熊本大学大学院自然科学教育部材料・応用化学専攻 修士課程修了 檜木野 介子

この度、熊本大学大学院を卒業いたします檜木野介子です。熊本大学への第3年次編入以降、大学院修了に至るまでの4年間にわたり、多大なるご支援を賜りました黒田奨学会ならびに黒田長高様、奥様に心より御礼申し上げます。また、近況報告や報告書、研修会等を通じて多くのご指導ご鞭撻を賜りました理事の皆様にも、深く感謝申し上げます。

私は久留米工業高等専門学校在学時より金属材料工学を専攻し、金属の製造法や材料特性について学んでまいりました。さらに、熊本大学においては、純チタンを用いた新材料の組織および特性評価に関する研究に取り組んでまいりました。

私が熊本大学への編入を決意したのは、高専とは異なる先生方から学び、学生たちと交流することで視野を広げ、物事を多角的に捉える力を養いたいと考えたためです。そのような中で黒田奨学会の奨学生として採用していただき、研修会等を通じて異なる分野を専攻する学生や理事の方々と交流する機会を得たことは、自身の視野をさらに広げる貴重な経験となりました。また、共同研究のため学会発表が制限されていた私にとって、黒田奨学会での研修は、自身のプレゼンテーション能力を養う貴重な機会となりました。どのようにすれば他専攻の方々にも分かりやすい発表となるのかを考えながらスライドや原稿を作成することで、自身の材料に関する知識を再確認し、より深く理解することができました。

私は、来年度より神戸製鋼所に就職いたします。神戸製鋼所は、日本において鉄鉱石から鉄を製造することのできる数少ない企業の一つであり、社会基盤を支える重要な役割を担っています。また、鉄鋼材料にとどまらず、アルミ缶や新幹線に用いられるアルミニウム製品、さらには半導体分野において不可欠な銅材料の製造も行っており、多様な金属材料を幅広く手がけている点が大きな特徴です。

これまで高専時代から大学院にかけて9年間にわたり培ってきた材料工学の知識を活かし、カーボンニュートラルや持続可能な社会の実現に向けて、社会の基盤となる「材料」の分野から貢献していきたいと考えております。

これからは、黒田奨学会のモットーである「社会貢献」を胸に、より良いものづくりを通して社会に価値を提供できる技術者を目指してまいります。4年間本当にありがとうございました。今後とも黒田奨学会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

### 九州大学大学院工学府航空宇宙工学専攻 修士課程修了 岡林 竜一郎

このたび、九州大学大学院修士課程を修了いたします、岡林竜一郎と申します。修士課程の2年間、黒田奨学会の皆様より賜りました多大なるご支援に、心より感謝申し上げます。

修士課程では、経済的なご支援をいただけたことで、アルバイトに時間を割くことなく、学業および研究に専念できたことが、私にとって非常に大きな意味を持っております。そのおかげで、ドローンを用いた研究においては、実験環境の構築から機体の製作・飛行実験、さらには国際学会への参加といった成果を出すことができました。また、研修会では専門分野の異なる方々と議論する機会をいただき、発表における伝え方やスライドの構成について多くの貴重な意見をいただくことができました。

とりわけ、国際学会での発表を通じて、自身の研究を世界に発信するとともに、海外の研究者との交流を通して視野を広げることができた経験は、今後の人生においても大きな財産になると感じております。これらの経験は、ひとえに黒田奨学会のご支援があってこそ実現できたものであり、改めて深く御礼申し上げます。

また、修士課程期間中は研究活動にとどまらず、ドローンの国際大会への参加や「魔改造の夜」への出演など、課外活動にも意欲的に取り組むことができ、多くの貴重な経験を積むことができました。特に、チームで1つの目標に向かってモノを作り上げるという経験は、今後の社会人生活においても大いに活かせるものと感じております。

4月からは、三菱重工業宇宙事業部にて、宇宙製品の開発に携わる予定です。これまでに培った知識や経験を活かし、社会人として新たな一步を踏み出します。奨学生として過ごした日々を誇りに思い、その感謝の気持ちを忘れることなく、今後は社会に貢献できる人材となれるよう一層努力してまいります。

最後になりましたが、黒田奨学会のますますのご発展と、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。これまでのご支援に、重ねて御礼申し上げます。

### 九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物学専攻 修士課程修了 小野 菜月

この度、九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物学専攻修士課程を修了いたしました。黒田奨学会には、大学院特定枠の奨学生として修士課程の二年間、多大なるご支援をいただきました。学業と研究に専念できる環境を与えてくださったことに、心より深く感謝申し上げます。

振り返れば、私の大学生活は予想もしなかった展開の連続でした。入学当初の私は、大学院への進学を全く想定していませんでした。しかし、学部三年生での研究室配属を機に、未知の事象を解き明かしていく研究活動の面白さと奥深さに魅了され、「もっと深く学びたい、この道を究めたい」という強い向上心を抱くようになりました。しかし、経済的な不安から一度は進学を諦めかけていたところに黒田奨学会と出会い、奨学生として採用していただけたことは、私の人生において非常に大きな転機となりました。

大学院では、「トラフグのフグ毒蓄積メカニズムの解明」というテーマを掲げ、研究に打ち込みました。実は私の所属した研究室は、本来「赤潮」や「海洋マイクロプラスチック」を主に取り扱う場であり、フグの研究は前例のない新たな試みでした。そのため、実験設備を自ら整えることから始まり、実験手法も一から構築しなければならないなど、困難の連続でした。しかし、正解がない中で何度でも試行錯誤できる自由な環境、そして「自分がこの研究室におけるトラフグ研究の第一人者である」



という責任感は、他では味わえない貴重な経験となりました。

更に、この特殊なテーマのおかげで、学外の発表でも名前を覚えていただく機会が多く、黒田奨学会の交流会でも「フグの研究について詳しく聞かせてほしい」と温かく声をかけていただいたことが強く印象に残っています。自身の研究が誰かの興味を惹き、対話を生む喜びを知ったことは、三年間このテーマと向き合ってきた私にとって大きな支えとなりました。

四月からは一般財団法人化学物質評価研究機構にて、新たな一步を踏み出します。化学物質が水生生物に与える影響評価という、大学での学びを直接活かせる職務に就く予定です。今後は、貴学会からいただいた多大なるご恩を糧に、専門性を磨き、安全な社会の実現に寄与することで社会に恩返しをしていきたいと考えております。

二年間、温かいご支援を本当にありがとうございました。

### 九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻 修士課程修了 神田 楓華

大学院修士課程を修了し、これまでの学生生活を振り返りますと、学びと出会いに恵まれたかけがえのない時間であったと実感しております。入学当初は期待と不安が入り混じる中での出発でしたが、講義や研究活動、日々の積み重ねを通して、自ら課題を見出し、思考し続ける姿勢を身につけることができました。特に研究においては、単なる知識の習得にとどまらず、物事を多角的に捉え、自分なりの考えを深めることの重要性を学びました。

また、この二年間を支えてくださった多くの方々との出会いも、私にとって大きな財産です。指導教員や研究室の仲間との議論を通して、多様な価値観や視点に触れ、自身の考えを見つめ直す機会を得ることができました。こうした経験は、人としての成長にもつながったと感じております。

その中でも、黒田奨学会における経験は特に印象深いものです。まず初めに、修士課程の二年間にわたり多大なるご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。経済的なご支援により、学業および研究に専念できる環境を整えていただき、充実した学生生活を送ることができました。

とりわけ印象に残っているのは、奨学会の研修会での学びです。他分野の研究に触れる機会は非常に貴重であり、自身の専門を相対的に捉える契機となりましたが、私にとって最も有意義であったのは、「いかに伝えるか」という発表の在り方について深く考えることができた点にあります。学会では近接分野における議論が中心となる一方で、発表手法そのものについて多角的な意見をいただく機会は多くありません。本研修会では、多様な構成やスライド表現、話し方に触れる中で、「伝える」という行為の奥深さを実感いたしました。さらに直接フィードバックを頂戴したことで、自身の発表方法を見直す大きな契機となり、今後に活かすべき重要な学びを得ることができました。

今後は、株式会社竹中工務店にて設計および施工管理の業務に携わる予定です。当初は建築のデザインに魅力を感じてこの分野を志しましたが、学びを深める中で、建築が環境に与える影響の大きさを認識し、意匠性のみならず環境負荷との両立を図ることの重要性を強く意識するようになりました。今後は、環境的視点を取り入れた建築に取り組み、社会に貢献できる存在となることを目指してまいります。

最後になりますが、これまで温かくご支援くださった黒田奨学会の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

### 九州大学大学院経済学府経済システム専攻 修士課程修了 戸田 遥香

この度、九州大学大学院経済学府経済システム専攻を修了いたしました戸田遥香と申します。修士課程の二年間にわたり、温かいご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。経済的な不安なく学業に励み、無事に修士課程を修了できたこと、またその大学院生活の中で国際学会への参加など

豊かな経験を積むことができたのは、ひとえに黒田奨学会のおかげです。

さらに、金銭的なご支援のみならず、定期的に開催される研修会や懇親会では、様々な分野を学ぶ学生の皆さんと交流する機会をいただきました。普段は中々知り得ない他分野の研究内容に触れ、新しい知識を得たり知的好奇心を刺激されたりしたこと、発表の際に皆さんの見事なトークスキルや資料作成の工夫に感心し、自らの研究発表にも生かせる学びが多く得られたこと、そして交流を通じてそれぞれが持つ高い志やユニークな経験に感化されことなど、どれも大変貴重な経験でした。もともと新たな挑戦や環境の変化が得意なタイプではなく、狭い世界で生きてきた自分にとって、この二年間は自分で一步踏み出して得た経験と、人との出会いを通して広がった経験の両方に恵まれた時間でした。また、毎月の近況報告も、その時々のお出来事や気持ちを書き残し、自分自身を見つめ直す大切な機会になっていたように思います。

大学院では環境経済学を専攻し、環境問題の改善に学術的な立場から向き合っていました。そしてこの四月からは福岡県庁に入庁し、環境部に配属となりました。まさか一年目から環境分野に携わることになるとは思っておらず、自分でも驚いておりますが、この機会を大切にしながら、一步ずつ社会に貢献していけるよう励んでまいります。

改めまして、二年間にわたる温かいご支援に心より御礼申し上げます。黒田奨学会のますますのご発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

## 九州大学大学院工学府応用化学専攻 修士課程修了 中川 さくら

この度、私は無事に大学院修士課程を修了する運びとなりました。この2年間、研究に専念し、実りある日々を送ることができましたのも、ひとえに黒田奨学会の皆様からの多大なるご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

振り返りますと、修士1年次には黒田奨学会のご支援のもと、ドイツで開催された国際学会への参加、ならびにマインツ大学との共同研究という、大変貴重な機会に恵まれました。リンブルクでの学会におけるポスター発表では、様々なバックグラウンドを持つ研究者の方々と深く議論を交わすことができました。周囲が博士課程以上の学生や研究者ばかりという中で、光栄なことに唯一のポスター賞を受賞することができ、私にとって非常に有意義で自信につながる経験となりました。学会後はマインツ大学の教授を訪問し、最先端の環境で共同研究を行うなど、多くの収穫を得ることができました。

また、ドイツからの帰国直後には所属研究室の東京への移転という環境の変化もありましたが、関東地区の皆様が温かく歓迎してくださり、奨学生同士の交流の輪を大きく広げることができたと感じております。

この春からは、イギリスの大学の博士課程へと進学いたします。学部時代から抱き続けてきた「海外の大学に進学したい」という思いを諦めきれず、今回、新たな挑戦への一步を踏み出す決意をいたしました。異国での生活や研究という新たなステップに対し、不安な気持ちもございますが、精一杯吸収できるものはすべて吸収する覚悟です。そして、未来の社会を担う研究者として力強く歩んでいきたいと考えております。

多忙ながらも充実したこの2年間、日々の生活に不自由することなく研究に没頭できたことも、海外での学会や共同研究に挑戦できたことも、すべては黒田奨学会の皆様のお力添えがあってこそこの賜物です。修士課程における2年間のご支援に、改めて深く御礼申し上げます。

最後になりますが、黒田奨学会のますますのご発展と、関係者の皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

## 九州工業大学大学院情報工学府情報創成工学専攻 修士課程修了 三上 紗奈

はじめに、修士課程の2年間にわたり、多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私は、学部卒業時に、金銭面の事情から進学は断念せざるを得ない状況にありました。しかし、黒田奨学会からのご支援を賜ったことで、研究の道を継続する貴重な機会を頂戴いたしました。

修士課程では、自身の専門分野であるネットワーク科学や環境毒性学における理解を深めるとともに、積極的な学会参加や他機関との連携に取り組んでまいりました。国際学会への参加に際しても、黒田奨学会からのご支援により、貴重な機会を得ることができました。現在注目されている課題について理解を深めるとともに、自身の研究に関する議論を行うことができ、大変有意義な経験となりました。また、アブストラクト賞のファイナリストに選出されるなど、このような体験に恵まれたことに、深く感謝申し上げます。さらに、奨学会の活動においても、勉強会や懇親会を通じて、他大学で多様な分野を学ぶ方々と交流することができ、自身の知見を広げるとともに、たくさんのご縁を築くことができました。これらの経験は、研究者としての基盤を築くうえで、かけがえのないものとなっております。

このように充実した学生生活を送ることができましたのも、ひとえに黒田奨学会の温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。今後は、かねてより志しておりました研究者の道へ進むこととなりました。修士課程での経験があったからこそ、このような進路を実現することができたものと実感しており、今後も研究を継続できることに大きな喜びを感じております。これまでに培った知識と経験を活かし、研究活動を通じて社会に貢献できる人材となるべく、一層精進してまいります。

末筆ながら、黒田奨学会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

## 九州大学大学院地球社会総合科学府地球社会総合科学専攻 修士課程修了 米山 玲緒

この度、九州大学大学院地球社会総合科学府の修士課程を修了いたしました。まず初めに、2年間に渡り多大なるご支援を賜りました黒田奨学会の皆様、心より御礼申し上げます。また、研修会や懇親会等を通じて、研究に対する多くのご意見やご助言を賜りました先生方・学生の皆様にも、厚く御礼申し上げます。

黒田奨学会の研修会は、他の奨学団体ではあまり見られない独自の取り組みであると感じております。発表準備や研修会への参加に際し、当初は大変に感じることもございましたが、普段のゼミでは考古学分野の先生や学生が中心であるため、自身の研究内容を分野外の方々に分かりやすく伝える機会はそう多くありません。その意味でも、本研修会はたいへん貴重な経験となりました。また、様々な分野の動向や奨学生の研究に触れることができた点も、非常に有意義であったと感じております。

修士課程におきましては、主専攻として江戸時代人骨の変形性関節症に関する研究をおこない、副専攻では博物館等で利用可能なデジタルコンテンツの制作に取り組みました。おかげさまで、これら2つの研究を論文としてまとめ、無事修了することができました。変形性関節症は加齢によっても発症しますが、人類学においては、反復的な機械的負荷との関連や、そこから人々の活動パターンを復元する点に着目した研究がおこなわれてきました。私は、身分ごとに異なる生業や生活様式と変形性関節症との関連性について研究しており、今後も論文化に向けて引き続き取り組んでまいります。また、大学周辺の考古学的遺跡を学習できるデジタルコンテンツは、伊都キャンパス内の石ヶ原古墳跡展望展示室にて現在公開されており、今後も内容の充実を図っていきたいと考えております。卒業後は、小郡市教育委員会文化財課の職員として、考古学的遺跡の調査に携わります。これまでの学びを活かし、地域の歴史を紐解いていきたいです。

最後に、黒田長高様をはじめ、黒田奨学会の皆様、改めて深く感謝申し上げます。2年間、誠にありがとうございました。



## 慶應義塾大学法学部政治学科 卒業 大場 雅翔

この度、慶應義塾大学法学部政治学科を卒業いたしました。東京での進学という念願が叶い、4年間にわたり充実した学生生活を送ることができましたのは、ひとえに黒田奨学会の皆様の多大なるご支援があったからこそと、心より感謝申し上げます。

黒田奨学会での4年間を振り返りますと、毎年全力を注いだ研修会が最も深く記憶に残っております。小田部先生のご期待に沿えるよう、スライドのデザインや構成に工夫を凝らし、同学年の方倉君と切磋琢磨した時間は、今では良い思い出です。当日は野中理事からの鋭いご質問に身の引き締まる思いでしたが、必死に思考を巡らせ回答した経験は、大学の講義だけでは得られない貴重な学びとなりました。また、ミトコンドリアやヴァイヒビルドなど、異なる専門分野を持つ奨学生の皆様の発表は非常に刺激的であり、自身の視野を大きく広げることができました。

さらに、昨年ご卒業された渡邊蒼生先輩よりご紹介いただいた国会議員事務所でのインターンシップでは、政治の現場を肌で感じることができました。来客対応や選挙応援を通じて、政治がいかに関心のある方々に支えられているか身をもって学ぶことができ、私の大きな財産となりました。こうした黒田奨学会ならではのご縁に、改めて深く御礼申し上げます。

私は4月から東京海上日動火災保険株式会社に入社いたします。私の大きな目標は、『日本の政治・社会に貢献し、社会の先導者になること』です。「地方の未来が日本の未来を切り拓く」という信念のもと、地域の企業や自治体が抱える課題に対して、多様なプレイヤーを巻き込み解決を目指していきます。分かっている手を出せない課題や誰も気づかない課題に対して先んじて取り組んでいくことこそ、自分に求められる役割だという意識を持ち、常に新たな価値を提供し続けたいと考えています。ようやく自分のビジョンを実現するスタートラインに立ちました。まだまだ未熟者の私ですが、地元福岡、日本の未来のために精一杯尽力いたします。そして、私を支えてくださった皆様への感謝を忘れず、後輩たちへこの恩を還元できるよう精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。4年間、本当にありがとうございました。

## 大阪大学法学部国際公共政策学科 卒業 郭 薔

この度、大阪大学法学部国際公共政策学科を卒業いたしました。黒田奨学会の皆様には、4年間にわたり多大なる経済的支援を賜っただけでなく、学習面や進路に関しても温かいご指導をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

大学1年次には思うような成績を出すことができず、一度は奨学金停止という処分を受けました。その際、伊達前理事長や当時の教育担当の岡本先生より叱咤激励のお言葉を頂戴したことを、今でも鮮明に覚えております。実はこの頃、自分が黒田奨学生に相応しい人物なのかと悩み、プレッシャーから奨学生を辞退しようと考えていました。しかし、先生方の厳しくも温かいアドバイスを真摯に受け止め、学習態度を見直したところ、次の学期には想像以上の成績を取めることができ、奨学金の支給を再開していただくことができました。さらに4年次には部局間留学にも挑戦し、その際にも経済的なご支援を賜りました。おかげさまで大学生活は一層充実したものとなり、視野が広がる大変貴重な経験となりました。また、関西地区の研修会や瑞藤会総会を通じて、多方面でご活躍されている黒田奨学会のOB・OGの方々や奨学生と出会い、交流を深めることもできました。あの時、黒田奨学会を辞退しなくて本当に良かったと心から感じております。このように、黒田奨学生として採用していただいたおかげで、経済的な援助のみならず、数多くの貴重な経験を得ることができました。

さて、私は4月から東京で監査法人系ファームにてコンサルタントとして勤務する予定です。ビジネ



スを通じて社会課題の解決に貢献できる人物となれるよう、日々精進してまいります。そして、黒田奨学会の一員であったことに誇りを持ち、その名に恥じぬよう努めてまいります。改めまして、4年間にわたる温かいご支援とご指導に心より御礼申し上げます。

## 大阪大学工学部応用理工学科 卒業 東 開土

この度、大阪大学工学部応用理工学科機械工学コースを卒業いたしました。4年間、黒田奨学会の皆様には多大なるご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。高校生の頃、ニュース等で報じられるサイバー攻撃の影響の大きさに驚き、サイバーセキュリティの分野で社会に貢献したいと願書に書き、黒田奨学会へ応募いたしました。しかし、当時はその思いをうまく言葉にすることができず、面接でも十分に伝えることができませんでした。結果として補欠という形での選考となり、悔しさを感じたことを覚えています。

その後の大学受験においても、第一志望の学科には合格することができず、現在の機械工学コースに進学することとなりました。希望していた道とは異なる結果となりましたが、何とかご支援を賜りたいという思いから、補欠でありながらも大学合格の報告をさせていただきました。その後、奨学会の入学式後に滑り込みで正式に採用のご連絡をいただき、大変ありがたく感じております。1年生の頃は、自分の学びたい分野と大学での専攻との間にギャップを感じ、精神的にも苦しい時期を過ごしていました。その中で、現状を変えるためには自ら行動するしかないと考え、大学での機械系の学びと並行して、セキュリティ分野の勉強に取り組み始めました。資格試験の勉強やコンテストへの参加などを通じて、知識と経験を積み重ねてきました。

3年生の関西地区研修会では、MTP やMoonshot という考え方をもとに、大きな目標の設定とその達成に向けた道筋の組み立て方について発表しました。その中で、「サイバー脅威から社会基盤を守り、誰もが安心してデジタルを活用できる環境を実現する」という目標を掲げました。このように、自分のやりたいことや社会への関わり方を具体的に考えることができたのは、研修会での経験や、これまでの報告書作成の積み重ねがあったからだと感じております。

そして、目標への第一歩として、4月から株式会社野村総合研究所に入社し、セキュリティエンジニアとして働いてまいります。これから加速するデジタル社会の中で、人々の安心と安全に貢献できるよう努めてまいります。改めまして、4年間のご支援に心より御礼申し上げます。今後とも、瑞藤会会員として、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 東京大学経済学部経済学科 卒業 広田 瑞貴

このたび黒田奨学会ならびに東京大学経済学部経済学科を卒業いたしました、広田瑞貴と申します。奨学会の皆様には4年間にわたり多大なる経済的・精神的支援をいただきました。本当にありがとうございました。

私は2022年3月に修猷館高校を卒業し、奨学会の仲間に加えていただきました。卒業式の日には赤坂の本部で面接をしていただき、手厳しい質問を頂戴したことを鮮明に覚えております。それは理事の皆様への期待と優しさからのものであり、その後も、研修会、懇親会、面談など様々な場で、私の学びや将来設計の進捗をケアしていただきました。一方で、私は大学での生活や学業の面ではほとんど悩みを抱えることがなかったので、そうした面では自主性を尊重してくださったことにも感謝しております。

専門職として働き、自分にしか提供できない専門知を社会から求められたい、という思いが強かった私は、2023年4月に公認会計士を目指そうと決意し、予備校に入りました。当初は思うように勉強が進まず、1次の短答式試験には二度不合格となりました。しかし、毎月の奨学会への近況報告や半

期に一度の報告書が、自らの進捗を振り返る絶好の機会となったこともあり、徐々に学習のペースを確立することができ、2024年12月の短答式試験、2025年8月の論文式試験に合格して、同年12月に志望していた監査法人の内定をいただきました。本年2月から、EY新日本有限責任監査法人で公認会計士見習い（準会員）として勤務しております。

当面は監査業務に専念することとなります。公認会計士登録の後には、監査の道を究めるほか、事業会社での貢献、独立開業、大学院進学など多様なキャリアパスが広がっています。これからの数年間は、自らの適性に関心、そして社会からのニーズをしっかりと見極める期間にしたいと考えております。

先日の卒業式では公認会計士・税理士をされている評議員とお話する機会に恵まれ、会計士の心構えについて具体的に教えていただきました。こうしたご縁をいただけるのも奨学会の強みだと感じております。私も近い将来、奨学会にご恩を返し、また奨学会の後輩に頼られる卒業生として、社会に貢献する決意です。改めまして、4年間の温かいご支援、誠にありがとうございました。

## 九州工業大学情報工学部生命化学情報工学科 卒業 寺元 一耕

黒田奨学会事務局並びに理事のみなさま、大学院編入後2年間に渡り多大なるご支援を賜りありがとうございました。またこれまで主に研修会などを通して様々な刺激やアドバイスをくださった奨学生の皆様方にもこの場をお借りして感謝申し上げます。この2年間の大学生活を振り返ってみると、本当に沢山のことがありました。元々在籍していた高専の枠を飛び出して、大学内外で様々なことにチャレンジした経験は今後の私の人生を大きく左右するものであったと自覚しております。留学やハッカソン、ボランティア活動に起業など2年間の精力的な活動が、今の自分を形作っています。原稿執筆に際して私が皆さんに伝えられることはなにか考えた結果、起業という経験を通して学んだことと今後の展望をお伝えさせていただければと思います。卒業記念式典にご参加いただいた方は覚えていらっしゃるかもしれませんが、私は行政書士や弁護士などの“士業”と呼ばれる方々に向けた業務効率化ツールの開発を行う事業を営んでおります。去年の6月、現在のチームメイトに誘われたプログラミングコンテストをきっかけに始まったこの事業は、現在実社会で働く人々を助けています。私たちはこのツールを世の中に広め、働く人々の可処分時間増やし、もっと本質的な労働に注力してもらうという社会を目指しています。

さて、突然ですが皆さん、“価値”とは何であると考えますか？会社を経営する上で、その会社が提供する価値、Value を定めなければなりません。そして、会社が提供する価値を定めるためには、そもそも価値とは何かを知る必要があります。さらに、価値を知ることとは生きる意味を知ることであると思います。私はまだ、価値とは何かを一言で表すものを持ち合わせていませんが、少なくとも社会を構成する一人一人が、良く生きるためには何をすべきかを考えるための時間を提供することは価値があることであると考えています。単純な作業やプロフェッショナルでなくても出来る作業はシステムに任せて、その他の創造的な作業を人間が担うという形が理想です。その理想を実現するために弊社のValue は時間を生み出すことであると定義しました。自分にとっての価値というものを少しでも見出すことができたのは大学や社会での経験のおかげです。最後とはなりますが、改めて2年間ご支援いただきありがとうございました。

# 新 奨 学 生 よ り

## Welcome to KURODA SHOGAKUKAI

### 大学院特定枠奨学生

#### 九州大学大学院生物資源環境科学府 資源生物科学専攻 阿部 史佳



この春、九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻に進学いたしました、阿部史佳と申します。この度は、歴史ある黒田奨学会の奨学生として採用していただき、心より感謝申し上げます。伝統のある黒田奨学会の一員となれたことを大変光栄に思い、より一層研究と勉学に励んでいく所存です。

私は現在、温度がコムギの発芽特性に与える影響について研究を行っています。日本におけるコムギ栽培は、収穫期が梅雨と重なることから、穂の上で種子が発芽してしまう「穂発芽」が発生しやすい環境にあります。穂発芽が発生すると、種子内部のデンプンが分解されるため、コムギの収量や品質が低下し、生産現場において大きな問題となっています。穂発芽の発生は種子の休眠性と関係していますが、この休眠性は、登熟時と吸水時という異なる生育段階において、温度の影響を強く受けます。先行研究では、登熟時には低温条件で休眠が深まり、高温条件で浅くなる一方、吸水時には低温条件で休眠が解除されやすいことが報告されています。このように、同じ温度であっても作用する時期によって異なる生理応答が生じるという点に興味を持ち、研究を進めています。修士課程では、これらの現象がどのようなメカニズムで引き起こされているのか、遺伝子の発現やホルモンバランスの変化に着目して分子レベルで解明し、将来的に気象条件に左右されない安定した国産小麦の生産に貢献することを目指しています。

大学院での生活は、研究はもちろんのこと、それ以外の活動を通じて多くの経験を積み、専門

的な知見だけでなく広い視野を持って社会に貢献できる人間へと成長していきたいと考えております。黒田奨学会からいただくご支援を無駄にすることなく、日々感謝の気持ちを忘れずに努力を重ねてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### 九州大学大学院工学府航空宇宙工学専攻 入尾野 智紀



九州大学大学院工学府航空宇宙工学専攻に進学いたしました入尾野智紀と申します。この度は、黒田奨学会大学院特別枠奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。奨学会の一員として皆さんとの繋がりをもち、知見を広げる機会を頂けますこと大変嬉しく思います。

大学院では座学に加えて、月着陸機の姿勢制御に関する研究に邁進して参ります。近年、火星移住を見据えた月面基地建設のための宇宙開発が国際的に進められています。特に、月面での長期滞在に向けた月面探査が行われており、月資源の探索などのため、広範囲の探索が必要不可欠です。しかし、この月面探査にあたって、着陸機の推進系が液体燃料であることによる高コスト化が課題でした。そこで、学部での卒業研究ではより廉価な固体ロケットを燃料とし、固体ロケット点火時の姿勢不安定性を改善することのできる「スピン安定型月着陸機」の制御手法を確立しました。大学院では、実ミッションを想定した外乱に強い制御系を再構築し、本研究を発展させたものにしていきます。

最後になりますが、黒田奨学会によりご支援いただいた恩を心に留め、学業に励み、日本そして世界の宇宙産業に貢献できるよう研究に取り組んでいきたい所存です。



## 九州大学大学院薬学府創薬科学専攻 香川 万葉



この春より九州大学大学院薬学府創薬科学専攻に進学いたしました、香川万葉と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生としてご採択いただき、誠にありがとうございます。伝統ある本奨学会並びに瑞藤会の一員として、

その名に恥じぬよう、より一層学業や研究活動に励んでまいります。

私は現在、痒みの神経伝達メカニズムをテーマとして研究に取り組んでいます。通常時、痒みは生体防御システムとして働いていると考えられていますが、慢性化すると過度な引っ掻き行動が炎症反応を引き起こし、更なる痒みが繰り返される「痒みと掻破の悪循環」に陥ります。この悪循環を断ち切るために病態メカニズムの理解が不可欠ですが、その詳細は未だ不明な点が多く残されています。この現状を打開するため、私たちの研究室では痒みの神経伝達メカニズムと病態下におけるそれらの変化の解明を目標に掲げ、日々研究活動に邁進しています。

最後に、黒田奨学会での研修会などを通じて、多分野の学生や研究者の方々と交流する貴重な機会を得ることで、多角的な視点を養い、自身の研究の発展に繋げていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## 九州工業大学大学院生命体工学研究科 加藤 れな



この春、九州工業大学大学院生命体工学研究科に進学いたしました、加藤れなと申します。この度は、歴史と伝統のある黒田奨学会に大学院特別指定枠としてご採用いただき、誠にありがとうございます。黒田奨学会の皆様

からのご支援を賜るとともに、ともに勉学に励む多くの学生と出会えることに、期待と身の引き締まる思いでいっぱいです。

私は脳波解析を用いて、二者間における脳活動の変化について研究しています。特に位相に着目し、二者間における同一部位および個人内の部位間の比較を通して、特定の状況においてどのような活動が優位に生じているのか、また位相の同期がどのように変化するのかを検証しています。本研究を通じて、人と人との相互作用における脳活動の特徴を明らかにし、コミュニケーションの理解や支援技術の発展に寄与することを目指しています。

私はこれまで高専・工業大学と進学し、工学分野を中心に学んできましたが、他分野に触れる機会は多くありませんでした。黒田奨学会で多様な分野を学ぶ方々と交流し、新しい視点に触れながら、自分自身の学びを広げていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 九州工業大学大学院生命体工学研究科 高瀬 未夢



この春より九州工業大学大学院生命体工学研究科に進学いたしました、高瀬未夢と申します。この度は、黒田奨学会大学院特定枠奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

私は、皮膚と微生物の関係に関心を持ち、皮膚環境における細菌の働きやその影響について研究を進めています。特に、皮膚という外部環境と接する重要な器官において、微生物がどのように関与し、どのような影響を及ぼすのかを明らかにしたいと考えています。身近でありながら未解明な点の多い領域であるため、基礎的な理解を深めるとともに、その知見を応用へとつなげていくことに意義を感じています。微生物が皮膚の状態に与える影響を解明することで、健康な皮膚の維持やヘルスケア分野への応用に貢献することを目指しています。

今後は、専門分野の知識と研究手法をさらに深め、より実践的な研究成果を創出できるよう努めてまいります。社会に貢献できる人材へと成長していけるよう精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 九州大学大学院総合新領域学府 ユーザー感性スタディーズ専攻 三森 康平



九州大学大学院総合新領域学府ユーザー感性スタディーズ専攻に進学いたしました、三森康平と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採択していただき、誠にありがとうございます。長い歴史を有する黒田奨学会

の一員となれたことを、大変光栄に思っております。

私は、ヒトの睡眠に関する研究、特に不眠や夜更かしといった心理的課題について研究しております。睡眠は多くの精神疾患と密接に関連していることが知られており、私は睡眠がヒトの認知に与える影響を理解することで、精神疾患の理解や治療に貢献したいと考えております。また、これまで言語的に解釈されることの多かった睡眠心理の領域において、計算論モデルという数理的手法を用い、睡眠がヒトの認知メカニズムにどのような影響を与えるのかを明らかにしたいと考えております。

誰もが経験しうる睡眠の悩みの解決につながる研究を通して、社会に貢献できるよう、今後もより一層研究に励んでまいります。このように研究に専念できるのは、黒田奨学会のご支援のおかげであると深く感謝しております。いただいたご支援に応えられるよう、今後も研鑽を積んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 九州大学大学院システム情報科学府 情報理工学専攻 若松 大輝



九州大学大学院システム情報科学府に進学いたします、若松大輝と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思うとともに、奨学生としての自

覚を持ち、より一層勉学と自己研鑽に励む所存です。

学部では、ソフトウェア開発に用いられる大規模言語モデル(LLM)の誤生成を、出力後ではなく出力前に検知することを目的として研究を進めてきました。大学院においても、AIの出力を事後に検証するのではなく、生成前にリアルタイムで振る舞いを評価・制御する視点から研究を発展させていきます。特に、LLMがコードを生成する前に品質や安全性を推定する「事前コード品質予測フレームワーク」の構築を目指します。さらに、研究活動を通じて国際的な研究拠点との連携や学会発表に取り組み、LLMを用いたソフトウェア開発の安全性を高めるAI基盤技術の実現に貢献してまいります。AIが人々にとって安心して利用できる基盤技術となるよう貢献することを目標に、主体性と責任感を持って大学院生活に臨んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 大学一般奨学生

### 九州大学工学部材料工学科 3年次編入 小原 あかり



この度は黒田奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。多くの方々のご支援のもとで学ぶ機会をいただけたことに深い感謝を感じるとともに、その期待に応えたいという強い責任感を抱いております。

私はこれまで高等専門学校で培ってきた材料分野の基礎知識を土台に、大学ではより高度な研究へと発展させていきたいと考えています。特に、医療や社会に貢献できる材料の研究に関心があり、実験や文献調査を通して課題を自ら見つけ、試行錯誤を繰り返しながら解決していく姿勢を大切にしていきたいです。また、研究室での活動だけでなく、学会発表や外部との共同研究にも積極的に挑戦し、自身の成果を社会に発信できる力を養いたいと考えています。

さらに、国際交流にも主体的に取り組み、異なる文化や価値観に触れることで視野を広げ、多角的に物事を考えられる技術者へと成長したいです。



失敗を恐れず挑戦を続けることで、自らの限界を乗り越えていきます。

将来は、工学の力で人々の生活の質を向上させる研究者となり、社会に新たな価値を提供するとともに、黒田奨学会様への恩返しができる人材へと成長することを目標に、日々努力を重ねてまいります。

### 九州大学工学部応用化学科 3年次編入 山田 浩平



黒田奨学会の奨学生として採用していただき、大変光栄に思っております。入会後は早速さまざまな行事に参加する機会をいただき、黒田家ゆかりの地を巡る研修会や先輩方の研究発表会を通して、多くの奨学生や先輩方と親しく交流することができました。特に、九州大学で学ぶ先輩方から進路や研究活動について直接お話を伺えたことは、私にとって大変貴重な経験でした。黒田奨学会に所属したからこそ得られた新たなつながりに、深く感謝しております。

私は久留米工業高等専門学校から、九州大学工学部応用化学科分子生命工学コースへ三年次編入しました。大学では、高専時代に身に着けた基礎力をより強固なものにしつつ、より専門的な化学の内容が入ってきたように感じます。特に週三回行われる実験の充実度に驚いています。TAの方々による少人数での丁寧な指導のおかげで、実験操作や理解を着実に深めることができます。今後は、知識と技術の双方を磨き、有用な骨格の発見や新たな機能を持つ材料の開発に携わりたいと考えています。そのために、自由自在な有機合成ができる研究者を目指し、日々努力を重ねていきたいです。

### 九州大学文学部人文学科 井手 晴太



この春、福岡高校を卒業し、九州大学文学部人文学科に進学いたしました井手晴太と申します。この度は黒田奨学会の新奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一

員となれたことを大変光栄に思うとともに、これから始まる大学生活に向けて身の引き締まる思いです。

私は高校の古典の授業で伊勢物語や源氏物語を読み、その物語の書かれた背景を学んだことで古典に興味を持つようになり、九州大学文学部へ進学することに決めました。大学では古典文学を軸に日本語の変遷について学びたいと考えています。また将来は編集者などの本にかかわる仕事につき、本を通して多くの人を精神的な面から支えていきたいと考えています。そのために古典文学の他にも心理学や哲学などを学び、人の心についてもより詳しく知りたいと考えています。文系、特に文学部は理系ほど直接的に社会の発展に貢献することは少ないですが、言葉の持つ力を最大限に引き出し、言葉によって社会を支えることを目標に勉学や活動に励みたいと考えています。

最後になりますが黒田奨学会の学生として採用いただけましたことを改めて深く感謝申し上げます。これからも奨学会のご支援のもと、より一層励んでまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

### 東京大学教養学部文科一類 宇野 醸太郎



このたび黒田奨学生として採用していただいたことを、大きな喜びとともに大変光栄に感じています。私にとってこの奨学金は、経済的な支援であると同時に、これからの学びに対する社会からの期待を託されたものでもあると受け止めています。大学では法学を学び、

制度や政策がどのように社会の課題に向き合ってきたのかを歴史的・思想的な視点から理解するとともに、現代の複雑な問題に対する解決の糸口を探りたいと考えています。特に、日本の地方が直面している人口減少や地域社会の衰退といった課題に強い関心を持っています。授業で得られる知識だけでなく、フィールドワークなどを通して実際の地域の現状に触れながら学びを深め、将来は法と制度をよりどころに社会の課題解決に貢献できる行政官になることを目標としています。いただいた支援を当然のものとは考えず、大学での学びと経験を社会への還元という形で必ず生かしていきたいと思っています。

### 京都大学法学部 浦川 義永



この春、筑紫丘高校を卒業し、京都大学法学部に進学いたしました、浦川義永と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会、ならびに瑞藤会の一

員となる機会を賜り、大変光栄に存じます。多大なるご援助に感謝を忘れず、社会に貢献できる人材となるべく、日々精進してまいります。

今後の抱負といたしましては、自身が社会に最も貢献できる分野を見極めるために、法律を軸にしながら、幅広い分野の学びに積極的に取り組みたいと考えております。法律はあらゆる活動の基盤であり、様々な問題の構造的で実践的な解決に大きく役に立つものだと考えております。それらが多様化する社会課題の解決を図り、人々の生活を豊かにするという私の目指す社会貢献につながると考えております。また、留学や留学生との交流にも、積極的に挑戦し、国際的な視点を養いたいと考えております。

最後にはなりますが、改めて黒田奨学会に採用していただいたこと、深く感謝申し上げます。未熟ではございますが、研修会等の機会を通じて、一層成長できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 早稲田大学文化構想学部 国際日本文化論プログラム 小田 真緒



上智福岡高等学校を卒業し、この春、早稲田大学文化構想学部国際日本文化論プログラムに進学いたしました小田真緒と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。伝

統ある黒田奨学会および瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に思うと同時に、志高い先輩方や同期の皆様と出会い、身の引き締まる思いであります。

私は、日本の鬼や妖怪といった超自然的な存在を題材としたアニメや漫画作品に特化した翻訳家および研究者になることを目標に入学しました。大学では、古典をはじめとする日本文化が海外でどのように受容されているかを学び、日本文化の研究と翻訳の両面から専門性を深めていきます。将来、日本の作品翻訳を通じて、その背景にある日本独自の倫理観や死生観をより深く世界へ発信することに尽力していきたいです。

最後に、黒田奨学会の奨学生として選出いただいたことに改めて心より感謝申し上げます。研修会などの貴重な機会を通じて、多方面で活躍されている諸先輩方と交流し、自らの成長に繋げていく所存です。奨学生の名に恥じぬよう、精一杯励んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 九州大学医学部医学科 片岡 拓海



福岡県立修猷館高校を卒業し、この春から九州大学医学部医学科に進学いたしました、片岡拓海と申します。この度は黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会の一員

となれたことを光栄に思うとともに、一層精進していきたいと考えております。

私が医学を志したのは、医師として患者に寄り添い続ける祖父の姿と、難病でもう1人の祖父をなくした経験がきっかけです。医療にはなお解決すべき課題があると実感し、その解決に貢献したいと考えるようになりました。

大学では医学の専門知識に加え、工学系分野との連携や国際的な教育環境を生かし、多角的な視点から医療を捉える力を養いたいと考えています。特に九州大学の、医工連携のもとでAIや医療機器の仕組みを理解し、それらを安全かつ適切に活用できる力を身に付けたいです。将来は、患者一人ひとりに誠実に向き合いながら医療を止めない仕組みにも貢献できる医師を目指します。

最後に、まだ至らない点も多くありますが、このような機会をいただいたことに深く感謝し、奨学生としての自覚を持って努力を重ねて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 山口大学医学部医学科 草場 優衣



この春、福岡高等学校を卒業し、山口大学医学部医学科に進学いたしました草場優衣と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思うとともに、先日の研修会で先輩方の発表に刺激を受け、身の引き締まる思いです。

私は患者一人一人に寄り添い、心身ともに支えることのできる医師を志しています。また、専門にとらわれず幅広く対応できる医師となり、誰一人取り残さない医療の実現に向けて貢献したいと考えています。私自身、ひとつの症状で複数の診療科を受診した経験があることに加え、高齢化や多様化が進む社会を背景に、今後は患者の生活や社会背景も含めた医療がより重要になると考えています。こうした考えのもと、大学では医学知識や技術の習得だけでなく、実習や研究、その他様々な活動に主体的に参加していきます。そして、視野を広げるとともに人間性を高めていきたい

です。

最後になりますが、黒田奨学会のご支援に感謝しつつ、大学生活や奨学会での活動を通して自分の目指す医師になるために精一杯努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

#### 東京大学教養学部理科二類 栗原 葵



福岡県立修猷館高等学校を卒業し、現在、東京大学教養学部理科二類に所属しております栗原葵と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会および瑞藤会の一員として、社会に貢献できる人材となるように一層勉学に励もうと、身の引き締まる思いです。

私は現在、都市環境工学や社会基盤学に興味があり、将来は都市環境の改善や災害に強いまちづくりを通して、国内外問わず社会の役に立ちたいと考えています。特に「水」に興味があり、安全な水を確保することが難しい地域で、災害に強く環境負荷の小さい上下水道等の整備に取り組むことに関心をもっています。都市環境に関する課題に包括的に取り組むために、大学ではインフラや環境問題、減災につながる都市計画などについて幅広く学び、気候変動や自然災害を現象として深く理解するとともに、その被害を最小限に抑えるためにはどのようにインフラを整備すべきかについて研究したいと思っています。

黒田奨学会の皆様を支えていただいていることへの感謝を忘れず、目標に向かって精一杯努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 九州大学理学部化学科 古賀 拓翔



この春、福岡大学附属大濠高等学校を卒業し、九州大学理学部化学科に進学いたしました古賀拓翔と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。110年以上の歴史を持つ黒

田奨学会、そして瑞藤会の一員にならせていただいたことを大変光栄に思うと同時に、日々の勉学を頑張ろうととても身が引き締まる思いです。

私は将来、化学の視点から、日本ないしは世界のエネルギー問題を解決する科学者になることを目標としています。現在、特に核融合に興味を持っています。核融合は、原子力発電よりも出る放射線物質の量が少なくより安全で、燃料は海水に含まれる重水素で、燃料不足が起こることはほぼないと考えられています。日本は天然資源が少なく、発電するための石油や石炭、ウランなどを海外からの輸入に依存しているため、この核融合は日本にとってかなり重要なものだと確信しています。核融合は主に物理の分野ではありますが、私は化学の視点からも考え、化学と物理の架け橋となるような存在になりたいと考えています。

大学では、核融合を学ぶためにも自身が所属する化学科だけでなく、物理学科や工学部の授業をも聞きに行き、核融合をはじめとした、さまざまな知識を得たいと考えています。また、海外留学を通じて、フランスにある核融合実験炉(ITER)の建設地に行くことや留学先での勉強で、核融合に対するさらなる理解を深めたり、新たな視点からの化学、物理の学びを得たいです。そのためにも、外国語、特に英語の勉強を行い、現地の方々と議論できる力を身に付けたいと思います。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の新奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。多くの分野でご活躍されている奨学会、また瑞藤会の先輩方からさまざまなことを学ばせていただきたいと思います。努力を重ね、社会に貢献できる人材になれるよう精一杯精進します。今後ともよろしくお願いいたします。

## 鹿児島大学共同獣医学科 堺 鉄平



西南学院高校を卒業し、鹿児島大学共同獣医学科に進学いたしました堺鉄平と申します。この度は、伝統ある黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。瑞藤会の一員としての自覚を

持ち、日々精進してまいります。

私は将来、獣医師として、国境を越えた感染症対策に取り組み、人と動物が健康で暮らすことができる社会の実現に貢献したいと考えています。人と動物との間で感染する人獣共通感染症は感染症全体のおよそ半数、新興感染症においては7割を占めると報告されています。6年前に発生した新型コロナウイルスも人獣共通感染症であり、感染拡大により多くの人命が失われ、世界経済は大打撃を受けました。さらに、グローバリゼーションが進行する今日、ヒトとモノの移動は活発になり、病原体が国境を越えて広がるリスクは高まっています。これに対処するためには国際的な協力が不可欠です。そのため在学中は獣医学だけでなく英語の学習にも力を入れていこうと考えています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生として採用して頂いたことに改めて深く感謝申し上げます。まだまだ未熟者ではありますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

## 京都大学文学部 島田 享弥



今春、修猷館高等学校を卒業し、京都大学文学部に進学いたします島田享弥と申します。このたびは黒田奨学会の奨学生として採用していただき、深く感謝申し上げます。多彩な奨学生の方々と交流できることを楽しみにす

るとともに、私も奨学生の一人として誇りと責任を持ち、大学での学業と研究に邁進する所存です。

私は古墳巡りが趣味で、将来は古墳時代を研究



する考古学者を志しています。京大には日本最初の考古学研究室が設立され、明治期以来多くの遺跡調査を通じて日本考古学を牽引してきました。そのような環境で考古学の方法論や研究姿勢を基礎から学びたいと考えています。また、文化遺産を通じた地域社会への貢献にも関心があります。人口減少が進む現代において、古墳や遺跡は地域の歴史の拠り所として地域に活力を与える存在です。研究成果を地域社会とも共有し、住民が地域の歴史に誇りと愛着を持つきっかけを作りたいと考えています。

教養課程では民俗学や地質学など考古学に関連する幅広い分野にも関心を持って学び、これから考古学者として社会に貢献するという目標に向け努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 京都大学法学部 中村 郁人



筑紫丘高校出身の中村郁人です。今回黒田奨学会の一員になれたこと、とても喜ばしく思います。選考いただき誠にありがとうございます。私は、京都大学の法学部に進学します。

大学では、主に企業法や商法に関する知識を深め、並行して公認会計士資格の取得を目指し、法律分野に強みを持つ公認会計士になることを目指します。私のやりたい事は、できる限り多くの人の力になることであり、大学に通い、横断的な学びを深め、自身の柔軟性を高めていこうと考えております。具体的には、哲学や経済学などの文系科目はもちろん、環境学など理系分野についても大学で学んでいこうと思っております。

黒田奨学会で奨学金をいただけるおかげで、大学での学問に集中できる上に、研修会などを通じて様々な分野の学びをしている方々の話をお聞きすることが、大変自分の成長に繋げられるため、研修会など黒田奨学会の集まりには積極的に参加させて頂きたいと思っております。

周りの方々から多くの刺激を受け、自分自身も刺激を与えられる存在になれるよう努めて参りますので、これからよろしくお願い致します。

#### 九州大学文学部人文学科 中村 ほなみ



この度は、歴史ある黒田奨学会の一員となれたことを大変光栄に感じております。加えて、学業に邁進するために奨学金を給付していただけることに、心より感謝申し上げます。この奨学金が自分の将来への期待と激励の証であることを胸に刻み、

これから日々の学びに真摯に向き合って参りたいと思います。

私は将来、地方創生に携わりたいと考えています。私の目標は、現在の日本の各地が抱えている少子高齢化や過疎化による地域コミュニティの衰退といった課題に向き合い、解決策を見出し実行することです。この目標を叶えるために、九州大学文学部で社会学、特に地域福祉社会学を深く学びながら、主体的・実践的に地域社会を見つめる経験を積んでいきます。また、社会調査法や多角的な課題解決能力といったスキルを身につけ、日本の地域社会それぞれがもつ魅力を活かせる、持続可能なまちづくりに活かしていきたいです。さらに、大学生活を通じて、学業のみに留まらず周囲の人との関わりを大切にし、大学生という今この時期だからこそできる体験を重ねていこうと思います。

大学卒業後は、九州大学で培った知識と経験を活かして、人々の暮らしに寄り添い、地域社会が活力を取り戻せるような地方創生に取り組みたいですと考えています。そして、黒田奨学会から頂いたご支援を社会に還元していくために、社会のひとりひとりの大切な居場所を守り、日本社会全体を活気づけられるような人材となることを目指します。黒田奨学会の奨学生としてこのようなご厚意に応えられるよう、日々努力を重ね、また奨学会の皆様との交流を通じて、さらに自分自身を高めて参ります。

改めまして、このようなご支援と貴重な機会を賜りましたことに深く御礼申し上げます。

宮崎大学医学部医学科  
永利 陽葵



この春、福岡高等学校を卒業し、宮崎大学医学部医学科に進学いたしました永利陽葵と申します。この度は黒田奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員とな

ることができ、大変光栄であるとともに、身の引き締まる思いです。様々な分野でご活躍されている先輩方や他の奨学生の方々との交流を通じて、将来社会で活躍できる人材となれるよう精進してまいります。

私は将来、病気による不安を抱える患者を支え、救うことのできる眼科医になりたいと考えております。「眼」という器官は非常に繊細であり、緑内障や白内障、網膜疾患など多くの病気が存在し、そのいずれもが患者のQOLに直結する重大な疾患となり得ます。視力の低下や視野欠損は、日常生活を困難にするだけでなく、精神的にも大きな不安をもたらします。私はそのような患者一人ひとりと誠実に向き合い、対話を通して不安を和らげることのできる医師を目指したいと考えております。医師の言葉は患者に大きな影響を与えるものであり、単なる慰めにとどまらず、治療に関する明確で分かりやすい説明を行うなど、医師として適切な言葉がけを心がけていきたいと考えております。

そのため大学生活では、人との関わりを大切に、人間性や倫理観、コミュニケーション能力を磨くことにも力を注いでまいります。医師には確かな医学的知識や技術とともに、高い共感性や責任感が不可欠であり、幅広い経験が人としての成長につながると考えるためです。部活動やアルバイト、その他の活動にも積極的に取り組み、多様な経験を通して成長していきたいと考えております。

最後になりますが、至らない点も多く、奨学会の先輩方や理事の方々にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、黒田奨学生としての自覚と誇りを持ち、精一杯勉学に励んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京科学大学工学院  
西口 優希



この春、筑紫丘高等学校を卒業し、東京科学大学工学院に入学いたしました西口優希と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会、並びに瑞

藤会の一員としての誇りを胸に抱いて日々精進し、各方面で活躍なさっている先輩方のように、社会に貢献できる人材になれるよう努力してまいります。

私は、モノの制御に興味があり、実世界とデジタル世界を結び付ける、いわゆる「デジタルツイン」に関する研究をしたいと考えています。AIの発展によりデジタル環境の利便性は高まったものの、人間生活の基盤は依然として現実世界にあり、デジタルのみの進化では真の豊かさは実現できません。一方で、現実世界の産業発展は、少子高齢化による人材不足や物理的な場所の制約という大きな壁に直面しています。この課題を解決するのが、現実と仮想を高度に融合させる「デジタルツイン」です。現実世界から収集した膨大なデータをAIで分析・処理し、仮想空間上に現実を精緻に再現し、そのシミュレーション結果を「モノの制御」へとフィードバックすることで、物理的制約を乗り越え、実社会の最適化と人々の暮らしを本質的に豊かにすることができます。東京科学大学工学院には、まさにこの分野の研究をしている研究室が数多くあるため、その中で自分の興味のある研究テーマを見つけ研究し、その研究を通して社会に貢献したいと考えています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに改めて深く感謝申し上げます。幅広い分野の見識を深めるためにも、研修会等を通して活躍されている先輩方と交流し、自分の成長に繋げていきたいと考えています。黒田奨学会の名に恥じぬよう日々励んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 九州大学医学部医学科 葉玉 幹太



この春福岡県立筑紫丘高等学校を卒業し、九州大学医学部医学科に進学いたしました、葉玉幹太と申します。この度は伝統ある黒田奨学会の奨学生にご採用いただき、心より感謝申し上げます。

私は将来医師となり、臨床と研究の両面で、目の前の患者さん、そして未来の患者さんの命や健康を守ることで社会に貢献したいと考えています。九大医学科では、3年次の短期間の研究室配属や、5、6年次の、国内有数の規模を誇る九州大学病院での実習などを通して、臨床・研究両方の知識・技能や、医師としての倫理観などを育ててまいりたいです。また、6年次には海外の病院で医療チームの一員として臨床に携わることのできる国際交流プログラムがありますので、私はぜひこれに参加し、国際的な知見や人脈を得たいと考えています。

現在は福岡市西区の伊都キャンパスで基幹教育を修めつつ、大学生活で打ち込むサークルを決めたり、同じ志をもつ同級生と親睦を深めたりしています。まだまだ大学生活は始まったばかりですが、黒田奨学会のお力を借りながら、立派な医師に成長できるよう尽力してまいりたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 九州大学工学部Ⅱ群 八野 愛生



中村学園女子高等学校を卒業し、この春、九州大学工学部Ⅱ群に進学しました八野愛生と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。110年もの歴史と伝統のある黒田奨学会、

及び瑞藤会の一員になれましたことを光栄に感じるとともに、その一員としてふさわしい自分であるようにと身が引き締まる思いです。研修会などで自身と異なる学問分野の一端を覗き、多くの

奨学生の方々と交流できる機会はとても貴重だと感じます。その機会を楽しみながら互いに良い刺激を与えあっていきたいです。

大学生になり、これから学ぶ専門分野への期待が高まりました。私は現在、化学の材料工学の分野に興味を持ち、2年次には金属や無機化学に関する学科を選択したいと思っています。また、学問にかかわらず学生のうちにチャレンジしたいことを見つけて挑戦する経験を積んで、人としても成長する数年間にしたいです。

改めて黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに深く感謝申し上げます。至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、一生懸命努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 東京大学教養学部理科二類 舩越 奏太



この春、福岡高校を卒業し、東京大学理科二類に進学いたしました舩越奏太と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。歴史と伝統を持つ黒田奨学会および瑞藤会の

一員となることを光栄に感じると同時に身が引き締まる思いです。様々な分野で社会に貢献する先輩方から刺激を受けながら日々精進いたします。

私は少子高齢化や過疎化、インフラの老朽化といった人間の生活基盤に係わる現代の社会課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。そのためにまず前期教養課程では、東京大学独自のリベラルアーツ教育を通じて統計学や人文科学などを横断的に学びながら、特に生命科学の視点から人口動態の変化がインフラ／社会福祉に与える影響など、具体的な課題についての理解を深めたいと考えています。そして大学での学びを通じて専門性を高めた上で、ソフト／ハード両面から人の思いに寄り添いながら持続可能性を追求する社会基盤を率先して創造していきたいと思いをします。

黒田奨学会からいただく金銭的な支援と仲間からの学びに感謝の思いを持ちながら、次の世代



を作り出す人としての自覚をもって1つずつ着実な成長を続けていく所存です。これからのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### 九州大学経済学部経済経営学科 古川 優華



この春、城南高等学校を卒業し、九州大学経済学部経済・経営学科に進学いたしました、古川優華と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員

となれましたことを大変光栄に思っております。多方面で活躍されている先輩方や、高い志を持つ同期の皆様との交流を通して、多くの知見を賜りながら、自身の見識を深めてまいりたいと存じます。

私は、社会の仕組みを分かりやすく伝え、主体的に社会に関わろうとする姿勢を持った生徒を育成できる社会科教員を目指しております。そのためには、経済や社会の構造を客観的な根拠に基づいて理解する必要があると考えております。大学では、理論に加え、統計やデータ分析を活用した実証的な学びを深め、生まれ育った福岡をはじめとする地域社会に根ざした環境の中で多角的な視点から社会を捉える力を培ってまいります。

最後になりますが、改めて黒田奨学会のご支援に深く御礼申し上げます。まだまだ未熟な身ではございますが、黒田奨学生としての自覚を持ち、日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

### 早稲田大学政治経済学部政治学科 宮崎 藍



この春、福岡高等学校を卒業し、早稲田大学政治経済学部政治学科に進学いたしました、宮崎藍と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤

会の一員になれたことを大変光栄に思うとともに身の引き締まる思いです。様々な分野で活躍されている先輩方や勉学に励む他の奨学生の方々との交流を通して多くのことを学び、社会に貢献できる人材となれるよう日々精進してまいります。私は、政治やジャーナリズムに関心があり、大学での学びを通して政治のあり方や社会問題への理解を深めたいと考えています。政治、メディア、世論がどのように影響し合っているのかについて研究し、より良い世の中をつくるために何が必要なのかを学んでいきたいです。また、社会の現状を掘り下げるドキュメンタリーや調査報道に興味を持っているため、将来はそのような仕事に携わりたいと考えています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、多大なご支援をいただけることに改めて深く御礼申し上げます。至らない点も多いかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### 一橋大学法学部 武藤 夏姫



この度黒田奨学会の奨学生となりました、武藤夏姫と申します。黒田奨学会につきましては高校1年生の頃より存じ上げており、東京に進学する際にご支援を賜ることができるよう勉学に励みました。この度奨学

生としてご採用いただきましたことを大変光栄に存じますとともに、長い歴史を有する黒田奨学会の奨学生の一員としての責任の重さも強く感じております。



私は一橋大学法学部に進学し、「法」とは何か、という問いの答えを探求していきたいと考えております。将来は司法試験に合格し、弁護士として国籍や世代を超えて多くの人々の悩みに寄り添い、自らの知識を活かして法的トラブルを解決することを目標としております。

これまで私が自らの関心のある学びや興味のある活動に全力で取り組むことができたのは、家族や友人、先生方など、数え切れないほど沢山の人の支えてもらったからにほかなりません。この恵まれた環境への感謝を忘れることなく、今後は私自身が困難に直面する人々へ手を差し伸べる存在となり、法のもとにある安定した社会の維持・発展に貢献していく所存です。

### 東京大学教養学部理科一類 山崎 友雅



修猷館高校出身の自身が修猷館に深いゆかりのある黒田奨学会の奨学生となれたことを光栄に思います。幼い頃から福岡という土地で育った自身にとって、福岡は身近ながらもあまりその歴史を意識することのない場所でした。しかし修猷館、黒田奨学会、浩浩居という環境を通じて福岡の地に深い興味を持ち、貢献したいと思うようになりました。

大学では理数系の教科に限らず言語や思想といった教養が深まる学問にも取り組んでいこうと思います。また学習の過程ではAIに頼りすぎることなく、まず自身の頭で考える力を身につけたいと思います。

学問以外の点では、福岡出身の先輩方との交流を大切にしていきたいと思います。修猷館、黒田奨学会、浩浩居のOBさん方と関われる機会があれば、逃すことなく積極的に参加し、自身にない価値観や知識を吸収し人々に尊敬されるような人間になりたいです。

若い時期の貴重な4年間を無駄にすることなく、悔いの残らないよう一瞬一瞬を大切にしていきます。福岡を誇るのではなく、福岡が誇る人間になれるよう、努めて参ります。

### 九州大学芸術工学部芸術工学科 メディアデザインコース 山崎 愛咲美



筑紫女学園高等学校を卒業し、この度九州大学芸術工学部芸術工学科メディアデザインコースに進学いたしました、山崎愛咲美と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとう

ございます。長い歴史のある黒田奨学会、および瑞藤会の一員となれたことを大変光栄に思っております。在籍も専門分野も全く異なる先輩方や仲間たちとの出会いを楽しみに思うと同時に、改めて身の引き締まる思いです。

私は将来、子供たちが学習の楽しさを実感できる新しい学習ツールの開発に、デザイナーとして携わりたいと考えています。多くの場合は嫌がられてしまう勉強も、子供たちが心から楽しめる方法を模索したいです。また、デザイナーには「多様な利用者の視点に立って製品をデザインするための、多角的な視点」が必要だと考えています。それを身につけるために、大学では留学も視野に色々なことに積極的に挑戦していきます。

最後になりましたが、黒田奨学会の奨学生として採用していただいたことに、改めて感謝申し上げます。まだまだ未熟者ではありますが、将来、社会に貢献できるよう精進して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## キリマンジャロ登頂体験記 — 七大陸最高峰の一つに挑む —

九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻 博士 2 年

中橋 凜太郎

私は2025の年末から2026の年始にキリマンジャロ登頂に成功した。何度振り返っても驚くべきことだが、キリマンジャロ登頂のために飛行機を予約したのは、出国のわずか1週間前であった。高校サッカー部の同期と勢いのまま計画した、まさに弾丸登山である。準備や計画という点では反省すべき部分も多かったが、その一方で、深く考えすぎずに一步を踏み出す行動力があったからこそ、この挑戦が実現したのだとも感じている。そして、その勢いと仲間同士の支え合いがあったからこそ、最終的に全員で登頂を果たすことができたのだと思う。

キリマンジャロは、タンザニア北東部のケニア国境近くに位置する、標高5,895mのアフリカ大陸最高峰である。七大陸最高峰、いわゆるSeven Summitsの一つに数えられ、世界最高の独立峰としても知られている。ただ、ロープやアイゼン、ピッケルなどの専門的な装備や技術が必要としないため、登山経験が比較的少ない人でも挑戦しやすい山となっている。私自身は登山経験がほとんどなく、急いで登山靴を購入しタンザニアへと向かった次第だ。

私以外は関東在住なので、海外旅行はいつも現地集合・現地解散となる。登山開始前日に無事に合流を果たし、ツアー会社のコテージに泊まり登山開始に向けて準備をした。私たちは7人であったが、登山チームとしては総勢20名程度で挑むことになった。ガイドやコック、ポーター（荷物運び）と一緒に登るので非常に心強かった。登山ルートはMachameルートという5泊6日のプランを選択し、テントでの寝泊まりをした。

### [Day 1: Machame Gate (標高1800m) to Machame Camp (標高3000m)]

キリマンジャロ周辺は雨が多い時期だったそうで、登山は初日から雨との戦いとなった。マチャメルートの初日は、熱帯雨林のような雰囲気の中、緑に囲まれた山道を約10 km歩いた。準備に時間がかかって出発が遅れたため、

Machame Campに到着した頃にはあたりはすっかり暗くなっていた。しかしながら、ポーターたちは自分たちよりもはるかに早く到着しており、テントや夕食の準備をすでに終えてくれており、今後の行程を確認しながら食事を済ませた。

### [Day 2: Machame Camp (標高3000m) to Shira Camp (標高3840m)]

朝起きると、ガイドの方が洗顔用のお湯と紅茶を準備してくれていた。前日は真っ暗なうえに雨も降っていたため景色を楽しむ余裕はなかったが、この日は幸運にも晴れており、キリマンジャロの山頂であるウフルピーク（Uhuru Peak）を望むことができた。2日目は、熱帯雨林の雰囲気から一転し、岩の多い山道を登っていく行程であった。特に印象的だったのは、日本の高山という森林限界、およそ2,500m前後を超えるような標高でも、高山植物が力強く生えていたことである。日本とはまったく異なる植生に、アフリカの山を登っていることを強く実感した。しかし、2日目も登山途中で大雨に見舞われた。体力的なきつき以上に、寒さとの戦いであった。凍えながらようやくゴールのShira Campにたどり着くと、昼食には具材たっぷりの温かいスープが用意されていた。そのスープを飲んだ瞬間、冷え切った身体が一気に回復したことをよく覚えている。

### [Day 3: Shira Camp (標高3840m) to Lava Tower (標高4600 m) to Barranco Camp (標高3950m)]

朝目を覚ますと、少し頭痛を感じた。軽い高山病の症状であり、いよいよキリマンジャロの洗礼を受けたように感じた。3日目はShira Campを出発し、まず標高約4,600mのLava Towerを目指した。その後、標高約3,950mのBarranco Campまで下って宿泊する行程である。これは、標高を上げてから低い場所で眠る“climb high, sleep low”の行程であり、高度

順応のための重要な一日であった。歩いている最中も、けだるさや頭痛を感じる場面があり、キリマンジャロ登山が単なる体力勝負ではなく、標高との戦いでもあることを強く実感した。

#### **[Day 4: Barranco Camp (標高3950m) to Karanga Camp (標高4000m) to Barafu Camp (標高4670m)]**

4日目は、岩場を登る行程が中心で、登山中で最も楽しい一日であった。特にBarranco Campを出発してすぐに現れるBarranco Wallは迫力があり、怖さもあったが、岩を登りながら一気に標高を上げていく感覚があり、大きな達成感を得ることができた。しかし、登り切った後はしばらく下り道が続く、せっかく上げた標高を失っていくようで、少しもったいないようにも感じた。当初は途中のKaranga Campで昼食を取る予定であったが、かなりハイペースで進むことができているため、そのまま一気にBarafu Campを目指すことになった。というのも、4日目の深夜には登頂アタックが控えており、できる限り睡眠時間を確保したかったからである。この日からは植物も徐々に少なくなり、砂利道が続くようになった。Barafu Camp到着後、早めの夕食を取った。しかし、標高の影響もあり、食欲はあまり出ていなかった。それでも、深夜に控える山頂アタックに向けて、できる限り食べきるようにした。この日は大晦日であったが、そのような実感は全くなかった。山頂へ向かう楽しみと少しの緊張が入り交じった感情のまま、短い睡眠についた。しかしこの時は、山頂までの道のりが想像以上に壮絶なものになるとは、知る由もなかった。

#### **[Day 4 Midnight: Barafu Camp (標高4670m) to Uhuru Peak (標高5895m)]**

23時30分に起床し、紅茶と軽食を取りながら山頂アタックの準備をした。登頂開始とほぼ同時に2026年を迎え、周囲は多くの登山者で盛り上がっていた。しかし、笑顔でいられたのは最初の1時間ほどだった。Barafu Campを出発してから、まずは標高約5,756mのStella Pointを目指した。ここまでは、暗闇の中でひたすら急斜面を登り続ける行程であり、およそ4~5時間にわたって苦しい登りが続いた。この登りで、私は初めて人間の限界に近いものを実感した。登山中、何度も意識が遠のきそうになった。そ

の時は、深夜行動による睡眠不足のせいだと思っていた。いわゆる寝落ちのようなものだと感じていた。しかし、後から聞くと参加メンバー全員が同じような状態になっていた。冷静に考えると、おそらく酸素の薄さによる影響が大きく、限界寸前の状態だったのだと思う。そのような極限の条件下で、何度も何度も諦めそうになった。しかし、高校時代に共に厳しい部活動を乗り越えた仲間への存在は本当に大きかった。最初のうちは「頑張ろう」と声を掛け合っていたものの、途中からは声を出すことすら難しい状況になっていた。それでも、一緒に登っているという事実だけで力をもらうことができた。さらに、お互いの負けん気もあったからこそ、最後まで足を止めず、無事に全員で山頂へたどり着くことができた。山頂に着いた時も、頭はまだぼーっとしていた。山頂での長居は危険とのことで、写真を撮って下山を開始した。驚いたことに、下山を始めた頃、氷河と朝日がつくる壮大な景色を目にした瞬間、なぜだか自然と涙が溢れてきた。仲間とお互いを称え合い、久しぶりに心の底からの達成感を強く感じた。

#### **[Day 5: Uhuru Peak (標高5895m) to Barafu Camp (標高4670m) to Mweka Camp (標高3100m)]**

Uhuru PeakからBarafu Campまでは、ひたすら下り続ける行程であった。かなりの急斜面で、登頂時とはまた違った苦しさがあり、膝は悲鳴を上げていた。昼頃にBarafu Campへ到着すると、疲労は限界に達しており、倒れるように眠りについた。

しかし、この日の行程はまだ終わっていなかった。30分ほど経った頃、ガイドに起こされ、昼食を取った。その後、再び下山が始まった。全員が体力的には限界を迎えていたが、登頂を果たした達成感もあり、どこか和やかな雰囲気の中でMweka Campを目指した。そこからさらに3時間ほど歩き、この日の行程を終えた。途中で雨に見舞われなかったことは、本当に幸運であった。最終日の夜は、ガイドやポーターたちとトランプをして盛り上がった。登頂を終えた安堵感と、旅が終わってしまう寂しさが入り混じり、キリマンジャロで過ごす最後の夜には、どこか名残惜しい雰囲気が漂っていた。

キリマンジャロツアーでは一般的に、登山者が支払うツアー代金（15万円ほど）の中から、



キリマンジャロ国立公園の入園料や各種手数料、ガイドやポーターへの賃金などが支払われる。しかし、チーフガイドと話をする中で、実際にガイドやポーターに渡す金額は決して十分ではないという問題があることを知った。

キリマンジャロ登山は、現地の若者にとって貴重な収入源の一つである一方、働き手は多く、労働環境の改善は簡単ではないようであった。チーフガイドになれば待遇は比較的良くなるとのことだったが、そのためには大学に通う必要があり、そこにも大きなハードルが存在しているという。彼らの収入の多くは、登山者からのチップに支えられているのが現状であった。

チップの金額については、事前にツアー会社のオーナーと相談し、相場とされる金額を準備していた。しかし、最終日にチーフガイドにチップを渡した際、彼は現地の労働環境について率直に話してくれた。海外旅行でよくある交渉の一つと考える方も多いかもしれない。しかし、5泊6日の登山を通して、食事を共にし、トランプで笑い合い、厳しい山道を一緒に越えてきた中で、私たちとガイドやポーターとの間には確かな信頼関係が築かれていた。そのため、彼の言葉は単なる交渉ではなく、本心からのものだと感じた。私たちは、ポーターたちの生活を守ろうとするガイドの責任感と心意気に強く感銘を受けた。そして、互いに納得できる金額のチップを渡し、最後には熱い抱擁を交わして、キリマンジャロでの最後の夜を終えた。

金銭に関わる話であり、書くべきか迷った部分でもある。しかし、実際に現地へ足を運び、彼らと時間を共にしなければ知ることのできなかった問題であったため、今回の登山体験の一部として記録しておきたいと思う。

## [Day 6: Mweka Camp (標高3100m) to Mweka Gate (標高1640m)]

最終日は、Mweka Campから登山口であるMweka Gateまで下る、比較的短い行程であった。登山口でツアー会社のバスに乗るのだが、到着が遅くなると登山者で混雑するため、多くのガイドが早めの到着を目指すそうだった。キリマンジャロ登山中、私たちは同年代の日本人女性と出会っており、最終日の下山中にも再び遭遇した。私たちは、デジタルデトックスからの解放と、5日ぶりのシャワーを目前にして気分が上がっており、かなりのハイペースで歩いていた。しかし、その女性も非常に速く、何度差をつけてもなかなか距離を離すことができなかった。

負けん気の強い私たちは、さらに負けん気の強い若手ガイドに導かれ、要所要所でランニングを挟むようになった。それでも、なぜか相手のハイペースなウォーキングに追いつかれてしまう。そこで自分たちの闘志に火がつき、気づけば本格的なトレイルランが始まっていた。

かなりのスピードで山道を駆け下り、途中からは初めてランニングハイのような感覚を味わった。疲れているはずなのに、不思議と笑顔で走り続けることができた。最終的には、予定時間の半分ほどでMweka Gateに到着し、見事に一番乗りを果たした。まさか最後にトレイルランをすることになるとは思っていなかったが、非常に楽しい思い出となった。

その後、5日間を共にしたガイド、コック、ポーターたちと写真を撮り、感謝を伝えた。こうして、キリマンジャロ登山は幕を閉じた。翌日はサファリに行き、その後帰国した。年末年始の休みをすべて使った旅であったため、帰国の翌日からは、すぐにハードな研究生生活へ戻る事になった。



山頂での写真および壮大な眺め



### アメリカでの学会発表を経て

東京大学大学院 工学系研究科 物理工学専攻 修士2年

松田 仁

2026年3月15日から20日にかけて、アメリカ・デンバーで開催されたAPS Global Physics Summitに参加しました。本学会は、アメリカ物理学会（American Physical Society: APS）が主催するものです。宇宙、素粒子、量子コンピュータ、超伝導など、物理に関連する幅広い研究分野の発表が行われる非常に大規模な学会です。私にとってこれまでで最大規模の学会であり、とても刺激的な経験となりました。

開催地のデンバーは、北アメリカ大陸を南北に貫くロッキー山脈の東麓に位置する、標高約1600mの高地にあるコロラド州の州都です。デンバー到着までには、いくつかのトラブルがありました。羽田からシカゴ経由でデンバーへ向かう予定でしたが、悪天候によりシカゴ発デンバー行きの便が欠航となりました。別の便に振り替えてもらい、発表前日の深夜にようやくデンバーに到着しましたが、今度は預け荷物が届かないというトラブルにも見舞われました。着替えも手元になかったため、現地で購入した衣類を身に着けて発表に臨みました。精神的にかなり疲れた状態での発表となりましたが、発表自体も質疑応答も無事に終わることができました。質問者のうち一人は、質疑応答での私の回答に十分に納得していなかったようでした。そこで発表後に改めて説明し議論を重ねたところ、最終的には理解してもらいました。



現地で購入した衣類を身に着けて発表

口頭発表のほかにも、関心のある発表を聴いて知見を深めたり、これまでオンラインでしか議論できていなかった共同研究者に直接挨拶したりしました。今回の学会参加は、大変有意義なものとなりました。また、学会終了後にロッキーマウンテン国立公園のツアーに参加しました。ロッキー山脈の雄大な自然に触れ、心身ともに癒やされました。



ロッキーマウンテン国立公園にて

今回の学会参加で痛感したのは、英会話力の必要性です。飛行機の振り替えやロストバゲージへの対応は、当然ながらすべて英語で行わなければならない、自分の状況や求めている対応を伝えるのに非常に苦労しました。また、他の発表で質問する際にも、疑問点を英語でうまく表現するのに時間がかかったり、相手の英語を十分に聞き取れなかったりして、円滑に議論を進めることができませんでした。今後も国際学会に参加する機会があると思われるため、継続して英語力を磨いていきたいと思います。

このような貴重な経験ができたのも、黒田奨学会の皆様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。来年度からは、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻の博士後期課程に進学します。今回の経験を糧に、今後も研究に励んでまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



研究室メンバーと学会会場にて

## IEEE Big Data 国際学会での研究発表と学び

東京科学大学 工学院経営工学系 経営工学コース 修士2年  
實淵 有佑

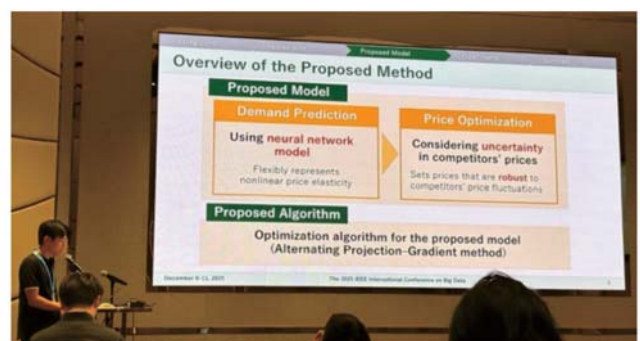
この度、2025年12月8日から11日にかけてマカオで開催された IEEE International Conference on Big Data に参加し、研究発表を行いました。

本研究は、2024年9月より約1年間、経営科学系研究部会連合協議会主催のデータ解析コンペティションに研究室メンバーとチームで取り組み、成果を論文にまとめて国際学会への採択に至ったものです。研究テーマは「他社価格の不確実性を考慮した処方のロバスト価格最適化」です。小売業において、競合店舗の価格変動が事前に把握できない状況でも安定した売上を確保できる価格最適化手法を開発しました。数値実験により、提案手法が競合店舗の価格変更時に生じる売上低下リスクを効果的に抑制できることを実証しました。

初めての国際学会発表は、研究者として多くの気づきを得られた貴重な経験となりました。質疑応答では、専門家として海外の研究者と議論するには専門的語彙力が圧倒的に不足していることを痛感しました。より深い専門的議論が

できるよう、今後は専門分野を英語で議論する力を養う必要性を強く感じました。一方で、知っている単語だけでも論理的に説明すれば十分に議論が可能であることにも気づけました。議論を通じて研究に対する新たな視点を得られたことは、大きな収穫でした。また、学会会場では日本の同分野の研究者と多くの繋がりを作ることができました。研究内容だけでなく、日々の過ごし方や将来のことなども共有でき、非常に刺激的な時間となりました。国際的な研究コミュニティの一員として活動する実感を得られたことは、大きな財産です。

このような国際学会に参加できたのは、研究活動に専念できる環境を提供してくださった黒田奨学会のご支援の賜物です。来年度よりコンサルティング業界でデータ分析に携わります。本経験で培った国際的な視野を活かし、グローバルに活躍できる人材を目指します。ご支援への感謝を胸に、今後もさらなる成長に努めてまいります。





# 「GREENIE 2025参加報告」

九州大学大学院 経済学府 修士1年  
松瀬 真未

2025年9月21日から9月25日にかけて台湾・台北で開催された国際学会「GREENIE 2025 (Green Innovation & Engineering International Conference)」へ参加し口頭で研究発表を行いました。

GREENIE 2025は、環境・持続可能性・グリーンイノベーションを主要テーマとする国際会議であり、特にライフサイクル評価（LCA）やグリーンエンジニアリングを通じた持続可能な社会の実現を目的として開催されました。台湾生命週期評価学会（Taiwan Life Cycle Assessment Society）が主催し、台湾で初めて開催されたLCA学会主導の国際会議として、世界各国から研究者、産業関係者、NGO関係者が参加しました。会議全体では約190名以上が参加し、100件を超える口頭発表およびポスター発表が行われ、国際的かつ学際的な学術交流の場となりました。

会議では、持続可能な生産と消費、気候変動対策と脱炭素戦略、政策・ビジネス戦略と環境評価、定量評価手法の高度化、産業応用と社会連携など、多岐にわたるテーマが扱われました。キーノート講演では、LCA研究の最新動向や今後の課題、グリーン製造や半導体産業におけるネットゼロ戦略などが議論され、環境評価研究の理論的・実践的発展について深い示唆が得られました。

私は、「CO<sub>2</sub> Emission Reduction Potential in Modal Shifts of Freight Transport in Japan: Multi-regional Input-Output Approach」と題

した研究を発表しました。本研究では、日本国内を対象とした多地域産業連関表（MRIO）を構築し、貨物輸送部門におけるモーダルシフトがCO<sub>2</sub>排出削減に与える影響を定量的に分析しました。特に、都道府県間輸送を明示的に考慮し、輸送手段の代替が排出構造に及ぼす影響を評価した点に新規性があります。

質疑応答では、モーダルシフトが困難な産業への対応や、輸送排出係数の設定方法に関する質問が寄せられました。これに対し、すべての産業で一律のモーダルシフトを想定するのではなく、代替可能性の高い産業から優先的に導入することで、大きな排出削減効果が得られることを説明しました。また、今後は金額ベースの排出係数との比較分析を行い、推計結果の妥当性をさらに検証する予定であることを述べました。

さらに、他の研究発表を通じて、最適化手法やLCAの産業応用、物流分野における持続可能性評価など、多くの知見を得ることができました。これらの研究は、私自身の研究テーマとも密接に関連しており、今後の研究深化に向けた重要な示唆を与えるものでした。

本学会への参加を通じて、異なる分析手法の利点と限界を比較検討する視点を得るとともに、研究内容をより分かりやすく伝える重要性を再認識しました。今後は、学会で得られたフィードバックを活かし、分析手法およびデータの精緻化を進めることで、政策的含意のより明確な研究成果を目指していきます。



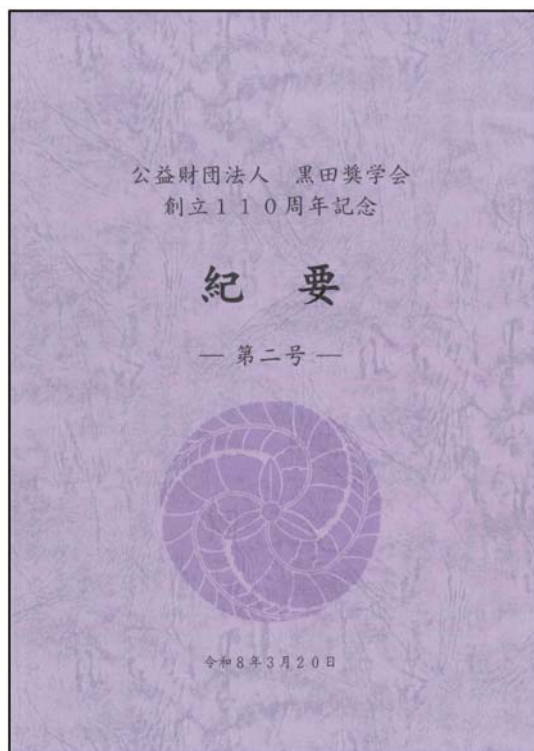
# トピックス

## ●黒田奨学会創立110周年記念「紀要」の発行

2025年度末に、創立110周年記念事業の一環として紀要を作成し、発行いたしました。当奨学会の紀要は、2005(平成17)年に創立90周年記念事業として創刊号が発行されました。創立100周年の際には諸般の事情により紀要の発行を見送りましたため、本号が第二号となります。

本号の編集は、元常務理事の岡本順子先生および渡邊幸信理事が担当しました。当会卒業生で瑞藤会会員の12名の方々に、ご多忙の中にもかかわらず快くご執筆をお引き受けいただきました。執筆者はいずれも大学等において研究・教育の第一線で活躍されており、その研究活動を通じて、黒田奨学会の理念である社会貢献を实践されている方々です。専門分野の多様性を反映し、文系・理系にわたる幅広い分野の研究成果が収録されている点が、本紀要の大きな特徴となっております。

本奨学会が110年にわたり培ってきた知の一端を紀要として広く公開することは、当会の理念である社会貢献の一環としても重要な意義を有するものと考えております。ぜひ多くの皆様にご高覧いただき、創刊号とともに後世へと受け継がれていくことを願っております。



| 目 次                                                                                              |     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 黒田奨学会創立110周年記念「紀要」の発行にあたって<br>公益財団法人黒田奨学会・理事長 重藤 健士                                              | 1   |
| 1. 近代の埋蔵文化財をめぐる近年の動向と下関要塞の現在地<br>文化庁・文化財第二課埋蔵文化財部門・文化財調査官 田中 龍一                                  | 3   |
| 2. エネルギー条件に基づく自己同期現象の解析手法<br>埼玉大学大学院・理工学研究科・助教 末田 美和                                             | 21  |
| 3. Graph Transformer による構造形状を統合した橋梁劣化モデルの構築<br>東京大学大学院・博士課程3年(2026年修了予定) 稲富 翔伍                   | 37  |
| 4. 生成AIの発展とその利用<br>九州工業大学大学院・情報工学研究院・教授 小田部 荘司                                                   | 49  |
| 5. 長寿命核分裂生成物 <sup>93</sup> Zrの核変換に関する基礎研究<br>九州大学大学院・総合理工学研究院・教授 渡邊 幸信                           | 65  |
| 6. リウマチ・膠原病学の進歩と私の歩み<br>九州大学病院・別府病院内科・准教授 三苦 弘喜                                                  | 81  |
| 7. Redox-based theranostics of gastric ulcers using nitroxyl radicals<br>久留米大学バイオ統計センター・教授 安川 圭司 | 91  |
| 8. もう少し大きく<br>明治安田生命保険相互会社 井手 那幹                                                                 | 109 |
| 9. AI時代の大学英語教育：“Yuki-Onna”を教材として<br>日本女子大学・文学部教授・イギリス文化研究 佐藤 和哉                                  | 113 |
| 10. 月次 UWES 測定による個人内変動分析に基づく Work Engagement 介入優先度判定システム<br>株式会社 RDPI、一般社団法人日本ポジティブ心理学協会 石橋 良造   | 129 |
| 11. 空間概念の進化―座標幾何学から導来代数幾何学へ<br>京都大学・数理解析研究所・助教 金城 翼                                              | 149 |
| 12. ふたたび、ザクロの話<br>元・埼玉県立大学教授、防衛医科大学校助教授<br>現・医療系専門学校非常勤講師(生理学・薬理学) 岡本 順子                         | 159 |
| 13. 紀要執筆者紹介                                                                                      | 173 |
| 14. 編集後記                                                                                         | 174 |



## ● 「Outstanding Presentation Award Gold Prize受賞」

九州大学大学院 理学府 物理学専攻 博士2年  
谷口 彰

2026年1月に京都大学にて開催された国際研究会「The 34th Workshop on General Relativity and Gravitation in Japan」において、Outstanding Presentation Award Gold Prizeを受賞しました。発表タイトルは“Quantum nature of gravitational waves from binary black holes and its applications to cosmology”です。

本研究の目的は、いまだ統一的な理解がされていない重力の量子的性質を解明することです。本研究では、現在観測されている連星ブラックホール起源の重力波を、量子力学の枠組みで解析しました。その結果、この重力波がコヒーレント状態(古典的な状態に対応する量子状態)の記述によって十分に捉えられることを明らかにしました。一方で、完全なコヒーレント状態からの微小なずれ(スクイーミング)が存在し、その大きさが約 $10^{-4}$ であると見積もりました。この値は、連星系からの重力波の量子性を探る将来の実験において、重要な目標となります。

今回の受賞を励みに、今後も重力波の量子的性質の研究をさらに発展させ、宇宙や重力に関する未解決問題の解明に貢献できるよう精進してまいります。



## ● 「国内3学会における優秀発表賞の連続受賞」

九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻 修士2年  
栗野 陽平

この度、2025年10月および2026年3月に開催された「第78回日本薬理学会西南会」、「第42回日本薬学会九州山口支部大会」、「日本薬学会第146年会」において、口頭およびポスター発表を行い、これら3つの学会全てで優秀発表賞を受賞させていただきました。日頃より温かいご指導とご支援を賜っております黒田奨学会の皆様のおかげで、研究活動に専念することができ、このような成果につながったと感じております。心より感謝申し上げます。

私は現在、「痛み」がどのような神経回路を介して調節されているのか、そのメカニズムの解明に取り組んでおります。特に、脳から脊髄へ下行性に投射する「下行性神経」に着目し、疼痛制御機構の理解を目指して研究を進めています。本学会では、これらの神経回路が疼痛制御に果たす役割の一端について報告させていただきました。また、疼痛学や神経科学を専門としない聴講者にも研究内容を直感的に理解していただけるよう、図表や説明方法を工夫しながら発表を行いました。全ての学会で優秀発表賞を受賞できた背景には、黒田奨学会の研修会において発表経験を積みさせていただいたことが大きく活きていると感じております。



## ● 「九州大学山川賞受賞」

九州大学の山川健次郎初代総長の名を冠した名誉ある賞であり、人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な2年次・3年次の学部学生が受賞対象になります。平成24年度に創設された賞で、令和7年度の受賞者7名のうち2名が本会奨学生で、この榮譽に輝きました。

### 九州大学工学部航空宇宙工学科3年 河野 雅宏

貴奨学会の皆さまのご指導のおかげで、九州大学が実施している学生表彰の一環でございます「山川賞」に、昨年度受賞いたしましたことをここにご報告いたします。この会報誌への寄稿の場を借りて、将来のビジョンや私が現在行っている活動について簡単にご説明いたします。

私には2つの目標がございます。1つ目は、火星探査機に携わるということです。現在、月面探査プロジェクトが盛んに行われておりますが、近い将来、月面探査の次に来るであろう火星探査に携わりたいと考えております。具体的には、NASAなどが打ち上げているキュリオシティやパーシビアランスなどの火星探査機の自律走行・自律着陸機構の開発に携わりたいと考えております。そのために現在、学科の専攻教育科目の受講に加えて、私が所属しているサークル「PLANET-Q」でのハイブリッドロケットや模擬人工衛星「CanSat」などの実践的な宇宙開発にも取り組んでおります。とりわけ、制御系において非常に重要な要素の一つであるプログラミングに関して、サークル内で電装班として開発を行っております。

2つ目の目標は、MBAを取得することです。シリコンバレーへの短期留学の経験を経て、MBAを取得して開発と経営の双方に携わるロールモデルに挑戦したいと考えるようになりました。現在は、九州大学に所属するアントレプレナーシップに関する総合的教育・研究センター「QREC」が実施している講義の受講などを通して、在学中からMBA取得に向けて活動しております。

私は、以上2つの目標を主軸に今後も精進してまいりたいと考えております。まだまだ至らぬ点も多くあるかと存じますので、今後とも黒田奨学会ならびに瑞藤会の皆さま、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。皆さまの益々のご健勝を祈念いたしまして、私の寄稿を締めさせていただきます。



黒田奨学会ならびに瑞藤会の皆様には、日頃より多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。この度、九州大学山川賞を受賞いたしました。今回の受賞は、将来、臨床と研究の双方で国際的に活躍する産婦人科医になるという私の目標と、その実現に向けた日々の活動を評価していただいたものと感じております。

私は幼い頃から生命の誕生や人の成長過程に深い興味を持ち続けてきました。将来は産婦人科医となり、生命の誕生を支えることで母子の健康を守りたいと考えています。科学技術の発達によって治療法の幅も広がってきている中で、多様な選択肢を示しながら母親やその家族に寄り添い、安心して出産できる環境を整えられる医師になりたいです。研究分野では、周産期医療や再生医療の研究にも関心があります。さらに、国際的な視野を持ち、海外で医師として働くことも私の大きな目標です。

将来の海外での活動を見据え、春からCBTや米国医師国家試験に向けた学習を開始しました。また、先日はノーベル生理学・医学賞を受賞されたボイトラー博士の英語での講演を学内で拝聴するなど、最先端の医学研究にも積極的に触れるようにしています。学業に加えて、九州大学救命サークルKLSAにも所属し、チーム医療に不可欠な連携力や実践的なスキルも学んでいます。

また、海外での経験を積むために、今夏にはオーストラリアでの単独ホームステイを計画しています。春には韓国で行われる英語医学PBLプログラムに参加予定であり、その他にも、医療英語に特化したフィリピンでの短期留学や、ドイツでの麻酔科実習に挑戦したいと考えています。

今後も、臨床と研究での国際的な活躍を通して広く社会に貢献できる医師を目指してまいります。歴史ある病院キャンパスで医学を深く学び、語学の探求や留学など多様な挑戦ができるのは、奨学会の皆様の温かいご支援のおかげです。今後も学問を通じて視野を広げ、自身の基盤を固めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。





# 行 事 報 告

## ●令和 7 年度 奨学生卒業記念会

平成 7 年 3 月 20 日（金）、黒田奨学会令和 7 年度卒業記念会がホテルオークラ福岡 4 階の平安の間にて開催されました。

卒業式は、当日参加の卒業生 18 名（学部生 5 名、院生 13 名）をはじめ現役奨学生、奨学会役員、事務局員含めて総勢 120 名が参加しました。式典は重藤理事長の挨拶により開会し、黒田長高総裁による祝辞、卒業生への記念品贈呈が行われました。続いて、卒業生代表の高岡祐太さんによる挨拶があり、厳粛のうちに執り行われました。

その後の祝宴は、渡邊理事による乾杯の発声により和やかに始まりました。歓談の後、卒業生一人ひとりに感謝の言葉と今後の抱負、後輩への激励が述べられ、個性あふれる挨拶が続きました。さらに、卒業生代表の稲富さんと郭薔さんより黒田長高総裁へ記念品が贈呈され、盛会のうちに午後 8 時に終了しました。



## 令和7年度 卒業・修了生進路一覧

| 氏 名     | 所属大学・大学院 |           | 進 路 先                                 |
|---------|----------|-----------|---------------------------------------|
| 稲 富 翔 伍 | 東大院      | 工学系研究科    | 山口大学 工学部知能情報工学科 助教                    |
| 高 岡 祐 太 | 九大院      | 工学府       | 九州大学 日本学術振興会特別研究員（PD）                 |
| 大 串 裕 紀 | 東大院      | 数理科学研究科   | 株式会社EYストラテジー・アンド・コンサルティング福岡オフィス       |
| 加 治 遼   | 一橋院      | 法学研究科     | 一橋大学大学院 法学研究科 博士課程進学                  |
| 蒲 池 海 斗 | 東大院      | 教育学研究科    | 東京大学大学院 教育学研究科臨床心理学専攻 博士課程進学          |
| 権 藤 洸 人 | 京大院      | 理学研究科     | JX金属株式会社                              |
| 佐々木 綾 太 | 東大院      | 工学系研究科    | 株式会社リクルート                             |
| 松 田 仁   | 東大院      | 工学系研究科    | 東京大学大学院 理学系研究科物理学専攻 博士課程進学            |
| 實 淵 有 佑 | 東工大院     | 工学院       | デロイトトーマツ リスクアドバイザーリー合同会社              |
| 山 田 和 輝 | 阪大院      | 理学研究科     | 大阪大学大学院 理学研究科物理学専攻 博士課程進学             |
| 植木野 介 子 | 熊大院      | 自然科学教育部   | 株式会社神戸製鋼                              |
| 岡 林 竜一郎 | 九大院      | 工学府       | 三菱重工業株式会社 宇宙事業部                       |
| 小 野 菜 月 | 九大院      | 生物資源環境科学府 | 一般財団法人化学物質評価研究機構                      |
| 神 田 楓 華 | 九大院      | 人間環境学府    | 株式会社竹中工務店                             |
| 瀬 川 智 皓 | 九大院      | 薬学府       | 九州大学大学院 薬学府創薬科学専攻 博士課程進学              |
| 戸 田 遥 香 | 九大院      | 経済学府      | 福岡県庁                                  |
| 中 川 さくら | 九大院      | 工学府       | Swansea university PhD課程進学（イギリス）      |
| 三 上 紗 奈 | 九工大院     | 情報工学府     | 国立研究開発法人産業技術総合研究所                     |
| 米 山 玲 緒 | 九大院      | 地球社会統合科学府 | 小郡市役所                                 |
| 大 場 雅 翔 | 慶應大      | 法学部       | 東京海上日動火災保険株式会社                        |
| 郭 薔     | 大阪大      | 法学部       | 株式会社EYストラテジー・アンド・コンサルティング             |
| 方 倉 颯 馬 | 東京大      | 工学部       | 東京大学大学院 工学系研究科航空宇宙工学専攻 修士課程進学         |
| 小 淵 朝 陽 | 東京大      | 法学部       | 東京大学大学院 法学政治学研究科総合法政専攻 修士課程進学         |
| 東 開 土   | 大阪大      | 工学部       | トヨタ自動車株式会社                            |
| 広 田 瑞 貴 | 東京大      | 経済学部      | EY新日本有限責任監査法人                         |
| 吉 田 遼太郎 | 九州大      | 工学部       | 九州大学大学院 統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻 修士課程進学 |
| 才 田 隼 輔 | 京都大      | 工学部       | 京都大学大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 修士課程進学   |
| 庄 子 綾 乃 | 千葉大      | 工学部       | 千葉大学大学院 融合理工学府基幹工学・医工学専攻 修士課程進学       |
| 寺 元 一 耕 | 九工大      | 情報工学部     | 株式会社Pascaline 代表取締役                   |
| 山 福 桜 綺 | 九州大      | 工学部       | 九州大学大学院 総合理工学府 修士課程進学                 |

30名（就職 18名、進学 12名）

## ●令和8年度 奨学生入会式

令和8年度奨学生入学式は、令和8年3月20日(金)14時より、ホテルオークラ福岡3階オークルームにおいて挙行されました。

今年度の新奨学生31名のうち、学部新入生21名(3年次編入2名含)と特定枠修士学生7名の計28名が出席しました。

総裁の黒田長高様・由佳子様ご夫妻にもご臨席を賜り、役員・職員を含め総勢44名が出席しました。

式典は、理事長挨拶、総裁ご挨拶に続き、新入奨学生による自己紹介が行われました。その後、役員・評議員・職員の紹介に続き、役員代表の安川理事より歓迎の辞が述べられ、奨学生としての心得についてご教示いただきました。最後に、新入奨学生を代表して、山崎友雅さん(東京大学教養学部理科一類)が黒田奨学生となった自覚と決意を込めた挨拶を行いました。



新入代表挨拶



入会式全体風景



令和8年度 新奨学生  
学部生

| 氏 名     | 出 身 校       | 大 学                       |
|---------|-------------|---------------------------|
| 井 手 晴 太 | 福岡          | 九州大学 文学部 人文学科             |
| 宇 野 醸太郎 | 大濠          | 東京大学 教養学部 文科一類            |
| 浦 川 義 永 | 筑紫丘         | 京都大学 法学部                  |
| 小 田 真 緒 | 上智福岡        | 早稲田大学 文化構想学部 国際日本文化論プログラム |
| 片 岡 拓 海 | 修猷館         | 九州大学 医学部 医学科              |
| 草 場 優 衣 | 福岡          | 山口大学 医学部 医学科              |
| 栗 原 葵   | 修猷館         | 東京大学 教養学部 理科二類            |
| 古 賀 拓 翔 | 大濠          | 九州大学 理学部 化学科              |
| 堺 鉄 平   | 西南学院        | 鹿児島大学 共同獣医学部              |
| 島 田 享 弥 | 修猷館         | 京都大学 文学部                  |
| 中 村 郁 人 | 筑紫丘         | 京都大学 法学部                  |
| 中 村 ほなみ | 筑紫丘         | 九州大学 文学部 人文学科             |
| 永 利 陽 葵 | 福岡          | 宮崎大学 医学部 医学科              |
| 西 口 優 希 | 筑紫丘         | 東京科学大学 工学院                |
| 葉 玉 幹 太 | 筑紫丘         | 九州大学 医学部 医学科              |
| 八 野 愛 生 | 中村学園女子      | 九州大学 工学部 II 群             |
| 船 越 奏 太 | 福岡          | 東京大学 教養学部 理科二類            |
| 古 川 優 華 | 城南          | 九州大学 経済学部 経済経営学科          |
| 宮 崎 藍   | 福岡          | 早稲田大学 政治経済学部 政治学科         |
| 武 藤 夏 姫 | 筑紫丘         | 一橋大学 法学部                  |
| 山 崎 友 雅 | 修猷館         | 東京大学 教養学部 理科一類            |
| 山 崎 愛咲美 | 筑紫女学園       | 九州大学 芸術工学部 芸術工学科          |
| 小 原 あかり | 久留米工業高等専門学校 | 九州大学 工学部 材料工学科（3年次編入）     |
| 山 田 浩 平 | 久留米工業高等専門学校 | 九州大学 工学部 応用化学科（3年次編入）     |

大学院生（学部・修士より継続支給および大学院特定枠新奨学生）

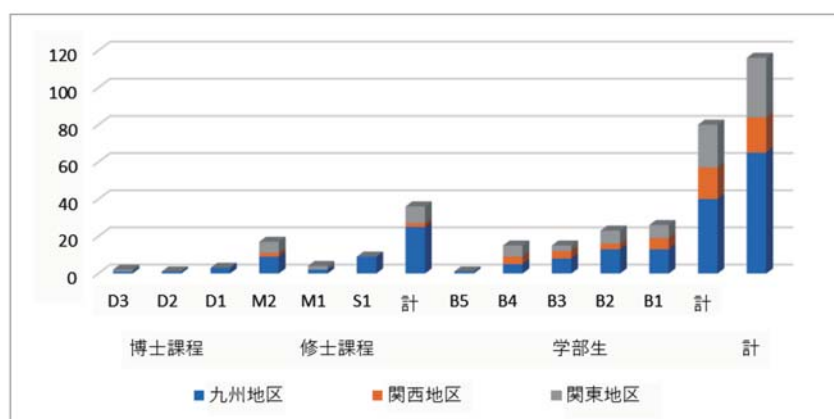
|         |    |                         |
|---------|----|-------------------------|
| 加 治 遼   | D1 | 一橋大学大学院 法学研究科 西洋法制史専攻   |
| 蒲 池 海 斗 | D1 | 東京大学大学院 教育学研究科 臨床心理学専攻  |
| 瀬 川 智 皓 | D1 | 九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻      |
| 松 瀬 真 未 | D1 | 九州大学大学院 経済学研究科 経済システム専攻 |
| 松 田 仁   | D1 | 東京大学大学院 工学系研究科 物理工学専攻   |
| 山 田 和 輝 | D1 | 大阪大学大学院 理学研究科 物理学専攻     |
| 方 倉 颯 馬 | M1 | 東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 |
| 小 淵 朝 陽 | M1 | 東京大学大学院 法学政治学研究科 総合法政専攻 |

|         |    |                                 |
|---------|----|---------------------------------|
| 才 田 隼 輔 | M1 | 京都大学大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻    |
| 庄 子 綾 乃 | M1 | 千葉大学大学院 融合理工学府 基幹工学・医工学専攻       |
| 山 福 桜 綺 | M1 | 九州大学大学院 総合理工学府 総合理工学専攻          |
| 吉 田 遼太郎 | M1 | 九州大学大学院 統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻 |
| 阿 部 史 佳 | M1 | 九州大学大学院 生物資源環境科学府 資源生物科学専攻      |
| 入尾野 智 紀 | M1 | 九州大学大学院 工学府 航空宇宙工学専攻            |
| 香 川 万 葉 | M1 | 九州大学大学院 薬学府 創薬科学専攻              |
| 加 藤 れ な | M1 | 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 |
| 高 瀬 未 夢 | M1 | 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻   |
| 三 森 康 平 | M1 | 九州大学大学院 統合新領域学府 ユーザー感性スタディーズ専攻  |
| 若 松 大 輝 | M1 | 九州大学大学院 システム情報科学府 情報理工学専攻       |

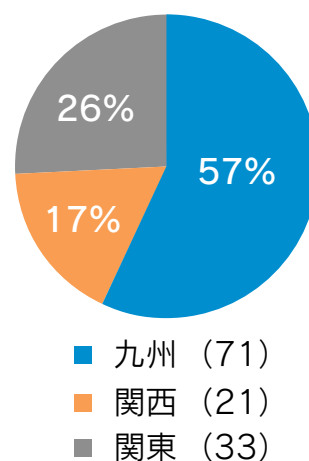
令和 8 年度 奨学生地区別分布（令和 8 年 6 月 1 日現在） ※ S = 特定枠

| 学 年     |    | 九州地区 | 関西地区 | 関東地区 | 全地区 |
|---------|----|------|------|------|-----|
| 博 士 課 程 | D3 | 1    | 0    | 0    | 1   |
|         | D2 | 3    | 0    | 0    | 3   |
|         | D1 | 2    | 1    | 3    | 6   |
| 修 士 課 程 | M2 | 10   | 0    | 2    | 12  |
|         | M1 | 2    | 1    | 3    | 6   |
|         | S1 | 7    | 0    | 0    | 7   |
|         | 計  | 25   | 2    | 8    | 35  |
| 学 部 生   | B6 | 1    | 0    | 0    | 1   |
|         | B5 | 2    | 2    | 1    | 5   |
|         | B4 | 7    | 4    | 3    | 14  |
|         | B3 | 14   | 4    | 7    | 25  |
|         | B2 | 11   | 6    | 6    | 23  |
|         | B1 | 11   | 3    | 8    | 22  |
| 合 計     |    | 71   | 21   | 33   | 125 |

学年別分布



全奨学生 地区別分布



## ●令和7年度 黒田家法要・ミニ研修会

令和7年度の卒業記念会に先だち、黒田家への卒業報告および感謝の意を表すため、令和8年3月20日午前11時に、黒田家菩提寺である崇福寺を訪問し、黒田如水公の法要に参列するとともに、黒田家墓所において墓参を行いました。これには卒業生18名に加え、重藤理事長、増本事務局長、伊達前理事長が参加しました。



崇福寺にて

卒業記念会の翌日、3月21日(土)に、黒田家ご当主と黒田家ゆかりの地を訪ねるミニ研修会を藤香会と合同で実施しました。ご当主の黒田長高様、由佳子様ご夫妻に、奨学会からは重藤理事長、増本事務局長、令和8年度新入奨学生28名と自主参加の現役奨学生10名が参加しました。

朝9:30に日本銀行福岡支店前から、バスにて糸島にある櫻井神社を参拝後、福岡市内の高取焼窯元亀井味楽窯を見学し、紅葉八幡宮で参拝(社務所内にて昼食)しました。

参加した奨学生は黒田家の歴史に思い馳せるとともに、新しい仲間達と和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。



櫻井神社にて



高取焼窯元亀井味楽窯にて



紅葉八幡宮(社務所)にて昼食



## ●令和7年度 九州地区研修会 後期第2回

令和7年度九州地区研修会(後期第2回)を、令和7年11月8日(土)、アクロス福岡607会議室において開催しました。発表は博士課程学生2名、修士課程学生6名、学部学生9名が行い、うち学部1年生6名が初めての発表を行いました。最後に、小田部理事による講評があり、発表者一人ひとりのプレゼンテーションについて、優れた点をご指摘いただきました。

奨学生参加者：発表者17名、会場参加奨学生33名、Zoom参加奨学生1名

参加役員：重藤理事長、増本常務理事・事務局長、小田部理事(教育指導担当)、  
安川理事(教育指導担当)、渡邊理事(教育指導担当)、野中理事



### 研修会に参加しての感想

九州大学生物資源環境科学府  
資源生物科学専攻 修士2年  
小野 菜月

この度は令和7年度後期第2回研修会を開催していただき、誠にありがとうございました。黒田奨学会の奨学生となって2年が経ちますが、研修会に参加するたびに「興味関心の幅を広げることの大切さ」を強く実感します。私は学部4年生からフグを対象とした研究に取り組み、今日までフグのことばかり考える日々を送ってきました。おそらく人生の中で、これほど長い期間フグに向き合い続けることはもうないと思います。しかし、このように視野が狭まりがちな環境にいる私にとって、研修会は世界を押し広げてくれる貴重な機会です。

今回の研修会では、経済学・農学・物理学・文学など、多様な分野の発表が並び、私にとって初めて知る内容ばかりでした。発表を一つ聞くたびに「こんな世界もあるのか」と驚き、学びの喜びを改めて感じました。以下では、特に印象に残った2名の奨学生の発表について述べさせていただきます。

一人目は、佐賀大学医学部1年生の上田さんです。上田さんはボート競技で舵手(COX)を務めた経験を基に、競技の面白さや奥深さを情熱的に語ってくださいました。私はボート競技に関する知識

が全くなく、「COX」という役割も初めて知りました。しかし、上田さんが大会での体験やCOXの重要性を楽しげに、そして熱く語られる姿を拝見し、まるで自分も大会の現場にいるかのような臨場感を覚えました。聞き手である私の心まで動かされる、非常に魅力的な発表でした。

二人目は、九州大学大学院理学府修士1年生の池田さんです。池田さんは研究テーマである暗黒物質の探求に、夏季休業中の経験を織り交ぜたユニークな発表をされました。正直に申し上げると、私はその自由度の高さに驚き、少しの嫉妬すら感じました。私は大学院から黒田奨学会に所属しており、これまでの研修会では研究室でのテーマを中心に発表してきました。一方、池田さんは自身の研究に加え、直近の経験から得た学びを盛り込み、学会とは異なる“研修会ならではの”発表を体現されていました。その姿を見て、「この研修会はもっと自由に、自分の興味や経験を語ってよい場なのだ」と気付かされました。この気づきは、今後の発表や人前で話す機会において、私の視野を大きく広げてくれると思います。

以上のお二人をはじめ、どの発表も大変興味深く、充実した一日を過ごすことができました。奨学生として過ごせる日々は残りわずかですが、この貴重な機会を大切に、今後の研究と人生に活かしていきたいと思っています。改めまして、この度の研修会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

## 九州大学農学部生物資源環境学科2年 石倉 美来

11月8日に開催された、後期第2回九州地区奨学生研修会に参加させていただきました。今回の研修会では、17名の奨学生の皆様による多様な発表が行われ、さまざまなトピックにまつわる発表を聞くことで、非常に刺激的な時間を過ごすことが出来ました。皆様の発表には、それぞれの研究や活動、興味をもつことに向き合う真摯な姿勢や社会課題への鋭い洞察が込められており、聴講者として多くの学びと気づきを得る貴重な機会となりました。

例えば、飲食店のプラスチックストロー廃止や、スーパーのレジ袋有料化など、地球温暖化抑制の為にCO<sub>2</sub>排出量を減らそうとする取り組みは身近なものです。私達は日常生活においてCO<sub>2</sub>排出量について考えることは少ないのではないのでしょうか。庄田さん、松瀬さん、高岡さん、神田さんによるカーボンニュートラルに関する発表は、様々な視点からこの課題を捉える良いきっかけとなりました。社会問題へのアプローチは正誤の二元論ではなく、複数の仮説と実践の積み重ねによって形づくられるものです。多様な知識・視点をもつことで1つの課題に対して多面的なアプローチが可能になることを改めて実感しました。

また、まだ研究室に配属されておられない方々も、

自分が興味を持っておられる内容について熱意のある発表を行っていた点が非常に印象的でした。専門的な環境に頼らずとも、自分なりの視点で社会や学問に向き合う姿勢からは、強い探求心と誠実さが感じられ、聴講者として多くの刺激を受けました。中でも藤原君のヒューマノイドロボットに関する発表は、技術的な限界や実装上の課題を具体的に整理しながら説明しており、複雑な内容にも関わらず非常に分かりやすく、理解が深まりました。また、藤井さんの「源氏物語」に関する発表は、タイトルの「時をこえて語りかける声」という工夫に加え、古典を学ぶ意義について自身の解釈を交えて語っており、質疑応答でも丁寧かつ的確に対応していた姿が印象的でした。藤井さんの言葉から、作品や古典に対する深い愛情を受け取りました。

今回の研修会を通じて、奨学生の皆様がそれぞれの関心や課題に真摯に向き合い、深い探究心をお持ちになられていることをまたも深く感じました。加えて、多様な視点や分野に触れることで、自身の学びや研究への向き合い方を見つめなおす貴重な機会となりました。今後の発表の場において、成長した姿をお見せできるよう精進して参ります。最後に、このような場を設けてくださった奨学会の皆様へ心より感謝申し上げます。

## 九州地区研修会 後期第2回・発表抄録集

### 1. コンテナ貨物ネットワークを組み込んだ世界多地域産業連関モデルの構築とその実証分析

九州大学大学院経済学府経済システム専攻博士2年  
庄田 朋申

グローバル・サプライチェーン（GSC）の国際物品貿易によるCO<sub>2</sub>排出量は世界CO<sub>2</sub>排出量の23%を占めており、GSC全体での排出削減は喫緊の課題である。従来の環境拡張型多地域産業連関分析は、GSCにおける「生産・消費」を分析する有力な手法であるが、物理的輸送構造を考慮していないという限界がある。本研究では、グラフ理論に基づき、コンテナ貨物ネットワークを世界多地域産業連関表に組み込むことで、「生産・輸送・消費」にわたるCO<sub>2</sub>排出量を包括的に評価する。

### 2. オオムギの登熟期に与える栄養状態が種子に及ぼす影響

九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻修士1年  
今泉 奈々

地球温暖化に伴う温度障害や異常気象により作物の収量の低下や品質の低下が引き起こされており、世界的な課題となっています。作物が高温や低温などといった環境ストレスを受けると、種子において様々な形質変化が生じることが明らかになっていますが、直接的な原因は未だ明らかになっていません。そこで、登熟中の種子における栄養状態の違いが形質変化を引き起こす原因なのではないかという仮説のもと、研究を進めています。今回は、作物の研究とその結果についてご紹介します。

### 3. 日本の貨物輸送における モーダルシフトのCO<sub>2</sub>削減効果：多地域産業連表を用いた分析

九州大学大学院経済学府経済システム専攻修士1年  
松瀬 真未

日本のCO<sub>2</sub>排出量のうち運輸部門は約18.5%を占め、貨物輸送がその42%を占めている。政府は2030年度までに運輸部門の排出量を2013年度比で35%削減する目標を掲げており、貨物輸送の脱炭素化が喫緊の課題となっている。本研究は、トラックから船舶・鉄道への転換であるモーダルシフトに着目し、生産・輸送・消費というサプライチェーンを考慮することのできる産業連関分析を用いてそのCO<sub>2</sub>削減効果を定量的に評価することを目的とする。

### 4. 自然言語指示に基づく安全なスマートホーム オートメーション自動生成手法の研究

九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻修士1年  
福田 航

近年、Switchbotに代表されるIoTデバイスが普及し、スマートホーム環境が一般化しつつあります。こうした環境では、「（条件）が起きたら（動作）を実行する」というオートメーション設定が活用されます。しかし、複雑な設定は煩雑

である点、ユーザーが意図しない動作を自動的に行なってしまう点などが課題となっています。本研究では、ユーザーによる自然言語での指示に基づき、こうした意図しない動作を回避する安全なオートメーションを自動生成する手法の実現を目的とします。

## 5. 九州国立博物館における文化財保存の実践的取り組み ―バックヤード見学を通じて―

佐賀大学芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科2年  
田上 心咲

九州国立博物館の見学を通じて、文化財の「保存」の仕組みを理解した。環境IPMに基づく温湿度・空気環境の精密管理や有害生物対策、X線CTスキャナや3Dスキャナを用いた非破壊調査、免震構造による防災設計など、多様な保存体制と人々の努力が、文化財の継続的な保存を支えている。本発表では、バックヤード見学で明らかになった文化財保存の実践的取り組みについて報告する。

## 6. 概日リズムの仕組みと現代社会の健康問題

九州大学医学部医学科2年  
八波 りお

私たちの体内の概日リズム（サーカディアンリズム）は、時計遺伝子の転写・翻訳のフィードバックループによって制御されている。細胞が約24時間の周期を保つそのメカニズムを、生理学と生化学の視点から分子レベルでまとめる。その上で、夜更かしや休日の睡眠時間の延長など、不規則な生活による概日リズムの破綻が健康に与える影響についても考察する。

## 7. 95%以上の切削油剤を削減できる「ニアドライ加工」について

九州大学工学部融合基礎工学科3年  
北岡 隼斗

切削加工において大量に使用される切削油剤は、その廃液処理による環境汚染が問題視されている。霧状の微小切削油剤を高圧エアで噴射するニアドライ加工は、切削油の使用量を大幅に削減できるが、油剤ミストの、工具の切れ刃部分への到達効率が課題である。そこで本研究では、静電塗装の原理を応用し、帯電させたミストを切れ刃へと集中的に供給する新たな手法を開発している。本発表では、本手法の概要と基礎研究で得られた成果を報告する。

## 8. アルコール代謝能の個人差と生活習慣病リスク：ALDH2遺伝子多型の視点から

佐賀大学医学部医学科1年  
樋口 士裕

お酒に「強い人」と「弱い人」がいるのはなぜでしょうか。その鍵は、飲酒による有害物質アセトアルデヒドを分解するALDH2（アセトアルデヒド脱水素酵素2）の遺伝子多型にあります。この体質の違いは、アルコール依存症や特定のがんなど、生活習慣病のリスクに直結します。本発表ではアルコールの代謝経路とALDH2遺伝子型によるリスクの違い、そして適正な飲酒基準について解説します。

## 9. 時をこえて語りかける声 ―古典を読むということ―

九州大学文学部人文学科1年  
藤井 南美

古典文学には、遙か昔を生きた人々の感情や声、日常の気づきや自然への豊かな感受性が繊細に描かれています。一方で、千年前の人々もまた、私たちと同じように葛藤や願いを抱え、時代の制約の中で生きていました。そうした先人たちの言葉から、現代の問題やこれからの社会を考える手がかりを得ることができます。本発表では、『源氏物語』を中心に、物語の表層に隠された「声にならない声」に注目することで、私たちがいま古典文学を学ぶ意義について考えていきたいと思います。

## 10. ヒューマノイドロボットの今までと今後の課題

広島大学工学部第一類1年  
藤原 アレックス 偉智朗

近年、ヒューマノイドロボットが急速に注目を集めており、世界各国の主要企業がその開発に取り組んでいる。日本でも純国産のヒューマノイドロボットプロジェクト「KyoHA」が立ち上げられ、この分野での技術的競争が活発化している。本発表では、ヒューマノイドロボットの歴史を概観するとともに、現在開発が進められている代表的な機体とその技術的特徴を紹介し、さらなる発展に向けた今後の課題について考察する。

## 11. 筋トレの科学 ―健康と成長のメカニズム―

佐賀大学医学部医学科1年  
山口 晃広

本発表では、筋力トレーニング（筋トレ）の基本的な原理と、健康維持・体力向上における実践的意義について解説する。まず、筋肉の構造と筋収縮のメカニズムを概説し、筋肥大がどのように生じるかを生理学的視点から説明する。次に、効果的なメニュー構成の考え方を紹介する。さらに、筋肉の成長に不可欠な栄養摂取の重要性を述べ、運動後のタンパク質補給や休養の役割を強調する。筋トレは単なる身体作りの手段ではなく、科学的根拠に基づく継続的な健康増進法として重要であることを示す。

## 12. ワーキングメモリから考える効果的な学習法

九州大学工学部Ⅲ群1年  
山本 颯士

私たちの身の周りには、「よりよい学び」に関する情報があふれている。しかし、その中から自分に合った学習法を見極めることは容易ではない。本発表では、認知心理学の観点からワーキングメモリに着目し、効果的な学習方法を探る。ワーキングメモリとは、短期的に情報を保持し処理する脳の働きであり、創造的思考や学習の基盤となる能力である。さらに、トレーニングの方法や、医療・教育への応用についても簡単に触れる。



### 13. 高効率CO<sub>2</sub>電解を目指した局所環境制御の検討

九州大学大学院工学府応用化学専攻博士3年  
高岡 祐太

カーボンニュートラルの観点から、再生可能エネルギーを用いるCO<sub>2</sub>電解(CO<sub>2</sub>RR)が注目されている。その実用化を目指す上で、CO<sub>2</sub>RRでは反応速度(電流密度)を向上させることが不可欠である。反応速度を向上させるアプローチとして、触媒近傍の局所環境制御が重要と考えられている。本研究では、Zr酸化物との複合化による局所環境制御が、CO<sub>2</sub>RRにおける反応速度を向上させることを見出した。本研修会において、この研究内容について発表する。

### 14. 発電量予測モデルを用いた動的CO<sub>2</sub>排出係数の算出と建物への応用

九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻修士2年  
神田 楓華

本研究では、エリアの電力需要、各発電設備の設備容量、気象データを入力として、1時間ごとの発電量を予測するモデルを構築し、誰もが利用可能なツールとして公開することを目的とする。得られた発電量からCO<sub>2</sub>排出係数を算出し、動的CO<sub>2</sub>排出係数の検討および将来予測を行う。また、清水建設の温故創新の森NOVAREに導入された水素関連設備の分析を共同研究として進め、建物単位でのCO<sub>2</sub>排出量予測への応用を目指す。

### 15. 漕がないプレイヤー

佐賀大学医学部医学科1年  
上田 景子

皆さんは「COX」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。日本語で「舵手」というと分かりやすいかも知れません。端的に言うと「舵を取る人」です。私は2025年夏に開催された西日本医科学学生総合体育大会、メディカルレガッタにCOXとして出場しました。本発表では、その経験を踏まえながらボート競技におけるCOXの役割について紹介させていただきます。

### 16. 時系列データ解析におけるKoopmanモード分解の実用化に向けた研究

九州工業大学大学院情報工学府情報創成工学専攻修士1年  
朝岡 翔大

時系列データとは、時間とともに変化するデータのことで、気象や経済など私たちの生活に関わる多くの分野で利用されています。そのようなデータを解析して将来を予測できれば、より豊かな社会の実現につながるでしょう。私の研究では、さまざまな解析手法の中でも非線形なデータを線形的に表現できるKoopmanモード分解(KMD)に注目し、取り扱っています。今回はなぜKMDなのか、これまでどのようなことをしてきたかについて話すので興味を持っていただけると幸いです。

### 17. 世界は場の混合でできている ～暗黒物質の検出に向けた理論構築を目指して～

九州大学大学院理学府物理学専攻修士1年  
池田 大樹

暗黒物質は宇宙のエネルギーのうち約27%を占めるといわれていますが、その正体はまだまだ謎に包まれています。今回の発表では、暗黒物質の候補の1つであるアクシオンが生まれる確率を理論的に研究する中で用いた「場の混合」という考え方を、身近な例を交えながら分かりやすく紹介します。さらにそこから話を広げ、夏季休業中のある出会いにも触れる予定です。フフフと鼻で笑いながら聞ける10分間にしたいと思っていますので、ぜひお楽しみに。

## ●令和7年度 関東地区研修会

令和7年度関東地区研修会を、令和7年12月6日(土)・7日(日)の2日間、御茶ノ水トライエッジカンファレンスにおいて開催しました。両日ともにそれぞれ16名が研究発表を行い、活発な質疑応答が交わられるなど、有意義な研修会となりました。最後に、安川理事による講評があり、発表者一人ひとりのプレゼンテーションについて感想・評価をいただきました。

奨学生参加者：関東地区奨学生全員32名

参加役員：重藤理事長、増本常務理事・事務局長、安川理事(教育指導担当)、  
渡邊理事(教育指導担当)、野中理事



## 研修会に参加しての感想

### 千葉大学工学部総合工学科4年 庄子 綾乃

黒田奨学会関東地区奨学生研修会に参加しての感想をまとめます。今回で2回目の参加となりましたが、改めて感じたのは、黒田奨学会の奨学生が実に多様な専門分野を持っているという点です。普段の生活では、どうしても自分の専門に近い分野の人と話す機会が多くなりがちで、他分野の専門的な話に触れることはほとんどありません。

私は工学部に所属しているため、経済や法律、古典などの分野に触れる機会は普段あまりありません。しかし、本研修会では幅広い分野の内容を知ることができ、さらに皆さんの発表が非常にわかりやすく構成されているため、理解しやすく、貴重な学びの機会となりました。

どの発表も素晴らしいものでしたが、ここでは1日目におこなわれた発表の中で、特に印象に残ったものを振り返りたいと思います。

まず印象に残っているのは、中川さんの発表で登場した「世界最大」という言葉です。中川さんの発表では、アップコンバージョンを示す固体材料に関する研究が紹介されました。中川さんが開発した材料は、世界最大のアップコンバージョン率を達成したと報告されており、その成果には大変驚かされました。「世界最大」という言葉は、誰しも一度は使ってみたいと感じるものではないでしょうか。優れた研究成果に加え、アップコンバージョンがどのような場面で有用なのかについても丁寧に説明してくださり、大変勉強になりました。私自身も、いつか何かの「世界最大」を報告できるような研究をしたいという強いモチベーションにつながりました。

次に、田中さんの発表では、サーキュラーエコノミーについて非常にわかりやすく解説していただきました。一見すると理想論のように感じられる取り組みですが、欧州ではすでに実践が進められており、GDP以外の経済発展評価指標が導入されていることなど、非常に学びの多い内容でした。また、住民一人ひとりの意識も深く関係しているとのことで、私たち日本人にとっても意識改革が重要であると感じました。さらに、欧州のサーキュラーエコノミーについて理解を深めるため、現地でのフィールドワークも予定していると伺い、その行動力に感銘を受けました。

そのほかにも、稲富さんや方倉さんの発表から、発表の仕方についても多くの学びを得ることができました。稲富さんの発表では、Transformerモデルの紹介に際して、うどんやごぼ天といった、特に福岡県民にとって身近な具体例を用いるこ

とで、聴衆の興味を引く工夫がなされていました。また、方倉さんの発表では、聞き手を巻き込むプレゼンテーションが印象的で、内容だけでなく伝え方の重要性を改めて実感しました。

最後になりますが、このような貴重な研修会の場を設けていただき、誠にありがとうございました。

### 慶應大学商学部2年 宇田川 樟

年に一度行われる関東地区奨学生研修会は、私にとって非常に刺激的な場であり、毎年楽しみにしているのですが、今回も学びの多い二日間となりました。今回の研修会を通じて奨学生の皆さんや先生方から得た学びについて、僭越ながら振り返らせていただきます。

まず感銘を受けたのは、各発表が入念な調査や高度な研究に基づいていることはもちろん、その伝え方に多くの工夫が施されていた点です。例えば、身近な例を用いて専門用語を噛み砕いて説明したり、クイズを取り入れたり、あるいは生成AIによる画像を活用して視覚的にイメージを共有したりと、聴衆の興味・関心を惹きつける工夫が随所に見られました。また、目次の提示やQRコードの活用によって、発表を円滑に進めている方もおられ、細かい違いであれ発表をよりよくするための重要なヒントを多く得ました。自分が専門としている領域を他人に分かりやすく説明することは、その内容が高度であればあるほど難しいのが当然です。しかし、奨学生の皆さんは、専門性の高い研究内容とわかりやすい説明を両立させており、そのプレゼンテーション能力の高さに感服しました。

また、質疑応答の際のやりとりからも、皆さんの思慮深さや知的好奇心を垣間見ることができました。異なる領域を専門とする人たちが、互いに質問を投げかけあうことは、新たな視座や考え方を得るきっかけになるということを改めて実感しました。余談ですが、今回は積極的に質問をすることを個人的なテーマとしました。質問を重ねる中で、最初は意識して考えていたのですが、だんだん自然と出てくるようになり、あらゆる分野に対する関心が高まったように感じます。来年こそは、腰痛関連の質問ばかりでなく、核を突いた質問をして成長した姿をお見せしたいです。

研修会後の懇親会では、学年の垣根を越えて奨学生や先生方と親睦を深めることができ、皆さんの知見の広さや意識の高さに圧倒されるばかりでした。何気ない会話から新たな発見が得られる楽しみは何にも代えがたい特別なもので、それを享受できる環境に身を置けていることへの感謝と矜持で胸がいっぱいです。

総じて、このような素晴らしい奨学会の一員で  
いられることへの喜びと、奨学会に対する敬愛の  
念がますます深まる二日間でした。私たちが学生  
として、そして一人の人間として成長する機会を  
設けてくださった黒田奨学会への深甚なる謝意  
をもって、結びにかえさせていただきます。

## 九州大学工学府・東京大学理学系研究科 修士2年 中川 さくら

関東地区研修会の1日目は、修士課程・博士課程  
の方の発表が多く、内容もかなり専門的でした。  
しかし普段はほとんど自分の研究室のメンバー  
としか話す機会がないため、このような研修会は  
外の新しい世界に触れるとてもよい機会になり  
ました。どの発表者の方も専門外の参加者に向け  
て丁寧かつ分かりやすく説明しており、大きな刺  
激を受けました。また、興味を引きつけるスライ  
ドの構成や話し方にも学ぶ点が多く、今後自分が  
発表する際の参考にしたいと感じました。

印象に残った発表の一つに、山中さんの「リアル  
お医者さんごっこ」というタイトルの発表があり  
ます。患者の一つの症状から想定される多様な  
疾患をカウンセリングや問診の内容をもとにどの  
ように絞り込み、最終的に適切な処置に繋げて  
いくのかというプロセスが紹介されていました。  
医学の現場における思考の流れを追体験するよ  
うな内容であり、医師が限られた情報の中で判断  
を下す難しさや、医学的知識と経験の重要性を改  
めて実感させられました。

また、「人工衛星の作り方」という方倉さんの発  
表も大変興味深いものでした。人の場合、「右に  
90° 回転してください」という指示を受けると、  
文脈を理解した上で自然に体の向きを変えること  
ができます。しかし、人工衛星のような機械は  
文脈を読み取ることができません。加えて宇宙空  
間には地面も摩擦も存在しないため、私たちが日  
常的に行っている「回転する」という動作も、機械  
にとっては自律的に行えるものではありません。  
こうした環境下で人工衛星の姿勢や動きを制御  
するためには、衛星の構造や操作を細かな工程に  
分解し、一つずつ確実に伝える必要があります。  
この説明を通じて、エンジニアリングの奥深さや  
難しさを改めて実感しました。

さらに、自分自身の発表を通して、分野外の方  
に分かりやすく説明する難しさも実感しました。  
自分の所属する研究室の中では当然の前提とし  
て共有されている概念であっても、聴講者にとっ  
ては必ずしも自明ではありません。だからこそ、「問  
題は何なのか」、「何を解決しようとしているのか」、  
「社会的・学術的にどのような意義があるのか」を

丁寧に言語化することの重要性を強く認識しま  
した。これは今後の研究発表の機会においても常  
に意識すべき姿勢であると感じています。

最後に、このような研修会を定期的に設けるこ  
とで、奨学生同士が顔を合わせ、率直に議論でき  
る貴重な機会となっていることを改めて実感し  
ました。多様なバックグラウンドを持つ仲間と意  
見を交わすことで、自身の視野も広がり、非常に  
有意義な時間を過ごすことができました。このよ  
うな機会を設けてくださった黒田奨学会の皆さ  
まに心より感謝申し上げます。

## 東京理科大学理学部第一部物理学科2年 下田 凜歩

12月6日、7日に行われた関東地区研修会に参  
加させていただきました。分野や学年の異なる発  
表者による様々な発表を通して、自身の専門であ  
る理工系にとどまらない視点から学問を捉え直  
す貴重な機会となりました。また、黒田奨学会の  
基本理念である「社会貢献のための人材」という  
点においても、それぞれの研究が社会や人間とど  
のように結びついているのかを改めて実感する  
ことができました。

多くの発表があった中で、特に印象に残ったの  
は山中さんの「リアルお医者さんごっこ」と小淵  
さんの「カントの『国際法』論」の二つです。前者は、  
医師が患者の声をもとに、限られた情報からどの  
ように病状を判断していくのかを体験的に考える  
内容であり、医療という行為の本質に迫る発表  
であったと感じました。単なる知識の当てはめで  
はなく、仮説を立て、それを検証しながら最適な  
判断に近づいていく過程は、医療に限らず、あら  
ゆる学問に共通するものだと思います。普段は患  
者としてしか体験できない医療行為の背後にある  
思考プロセスを疑似体験できた点が非常に新鮮  
であり、その発表の進め方そのものも強く印象  
に残りました。

一方、小淵さんの「カントの『国際法』論」に関  
する発表では、18世紀の哲学的議論が現代の国際  
社会においてもなお重要な意味を持ち続けている  
ことに強い印象を受けました。国家間の関係や  
平和の問題を、経験や政治的判断ではなく、実践  
理性に基づく法義務として理論化しようとする  
カントの姿勢は、国際情勢が不安定化する現代に  
おいてこそ再考されるべきものと感じました。  
私は理系の学部には所属しており、普段このような  
分野に触れる機会は多くありませんが、高校時代  
に現代社会と倫理の分野を熱心に勉強していた  
ことを思い出し、懐かしい気持ちになりました。  
また、レジュメを用いて思考の流れを整理しなが  
ら進められる発表形式も理解しやすく、内容への



理解を深める助けとなりました。

最後に、今回の自身の発表について振り返りたいと思います。最も大きな反省点として、タイムマネジメントが挙げられます。発表の途中で補足したほうが良いのではないかと思った点が多くあり、それについて長く話し過ぎてしまい、予定していた発表時間を大きく超過してしまいました。

またスライドの作成についても、レイアウトや色使い、内容の構成など工夫が必要だったと反省しています。指摘をいただいた点を見直し、来年度の研修会では内容をさらに深化させることを目指し、聞き手の興味を引くような発表ができるよう心がけたいと考えています。

## 令和7年度 関東地区研修会・発表抄録集

### 1. 資本主義経済とサステナビリティは共存しうるか？

東京大学経済学部2年

田中 琉惺

資本主義経済は我々の生活を便利にするとともに、地球の資源をこれまでにないスピードで使い、膨れ上がり続けています。我々の生活はすでに、様々な分野でのプラネタリー・バウンダリーの超越を引き起こしていますが、当然、地球の資源を守るためにいきなり成長を止める、不便だった時代の生活に戻るなどと言うのは非現実的な話です。八方塞がりに思えるこの課題へのアプローチを、今回は、欧州でのサーキュラーエコノミーへの取り組みに焦点を当てて探っていきます。"

### 2. リアルお医者さんごっこ

東京大学医学部医学科4年

山中 心源

皆さんは病院にかかったことがあるでしょうか？風邪や骨折といった皆さんも経験のある病気から、腫瘍や心疾患といった重大な病気まで、病院には様々な病気の患者さんが訪れます。そんな患者さんの主訴を医者はどう鑑別しているのでしょうか？例えば、お腹が痛いと言われたとして、それは単なる食べ過ぎなのか、それともお腹に重大な疾患があるのでしょうか？今回は、モデルケースをいくつかご用意しましたので、医者になったつもりで患者さんの病気を一緒に当ててみましょう。

### 3. 分位点指標に基づく探索 — 活用制御を組み込んだ制約付き実験計画法

東京科学大学大学院工学院修士2年

實淵 有佑

材料開発などの実験ではコストや時間がかかるため、試行回数を最小限に抑えつつ目的を達成する必要がある。本研究では、実験計画法の既存手法を改良した。具体的には、AIモデルと数理最適化を用いた従来法に、AIモデルの予測不確実性を考慮する手法を提案する。この手法は、高性能が予測される条件だけでなく、予測のブレが大きい未探索条件も積極的に選ぶ。これにより、探索効率向上が期待される。研修会では、本手法の内容と従来法との違いを紹介する。

### 4. なぜ日本人はロボットが好きなの？

早稲田大学文化構想学部文化構想学科2年

永松 由羅

人工知能（AI）へのイメージは、メディアが作り出す「AIナラティブ」と現実の技術が混同され、国や文化で差異があります。特に、ドラえもんなどポジティブな日本と、ターミネーターなどネガティブな西洋との違いは顕著です。今回の発表では、戦後、日本がメディアを背景にどのように科学技術大国になり、またロボットや人工知能などが受け入れられてきたのかについてと、今後のAIとの共存に向けた議論の必要性について話します。

### 5. 構造形状と工学的知識を統合したTransformerによる橋梁劣化モデルの構築

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻博士3年

稲富 翔伍

橋梁の老朽化が進行しかつ維持修繕に係る予算が限られる中、最適な補修戦略が求められる。そのためには劣化予測に基づいた定量評価が重要である。橋梁劣化は複数の損傷が互いに影響しながら進行するものである。そこで本研究ではTransformerモデルを用いて、部材の位置関係を基に多様な損傷相互作用を考慮可能な統計的劣化予測手法を構築する。また、統計的劣化予測が抱えるデータ不足への対処として、事前知識に基づくAttentionガイド手法の枠組みを提示する。

### 6. 相転移に現れる対称性とその数学

東京大学大学院数理科学研究科修士2年

大串 裕紀

磁石の性質が変わる瞬間や液体が気体へ移る境目といった相転移では、物質が違ってもよく似た振る舞いが現れます。これは、物質内部で遠く離れた部分どうしの振る舞いがそろい、観察する尺度を変えても同じパターンが見える状態になるためです。特に二次元では、こうした状態が強い対称性として整理できます。本発表では、その対称性を記述する数学の仕組みを概説し、そこで現れる代数構造を扱う私の研究の位置付けを紹介します。

### 7. 中世の法・異文化の伝播の態様とヴァイヒビルト—準備段階としてのヴァイヒビルト学説史的整理—

—橋大学大学院西洋法制史専攻修士2年

加治 遼

本研究の目的は、西欧中世における法と異文化の伝播を、中世ドイツの法源であるヴァイヒビルトを通じて明らかにすることである。その準備段階として、本報告では19世紀から20世紀の学者によるヴァイヒビルト解釈を学説史的に整理する。結果として、ヴァイヒビルトの意味は非常に多様であること、従来の伝播史研究がその点について十分に触れていないことを示す。考察として、今後は既存の伝播史研究を推進するために用例整理と用語変遷の地図化が求められる。

## 8. 今こそ、WLBを考える—全世代のWLBの実現に向けて—

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学専攻2年  
蒲池 海斗

2025年現在、WLBという言葉は人口に膾炙して久しく、また各企業においても「WLBの実現」と銘打った施策・支援が盛んに行われています。しかし、具体的にどのような支援を行ったらよいかわからないという声や、育児世帯のしわ寄せが非育児世帯に押し寄せているという負担の声も耳にします。生き方が多様化していく現代社会において、“WLB”というある種漠然とした概念をどう考えていくべきか、修士論文の研究を踏まえてご提案いたします。

## 9. VR環境における上肢運動学習のための聴覚フィードバック手法に関する一検討

東京大学大学院工学系研究科修士2年  
佐々木 綾太

聴覚フィードバックを用いて運動学習の効果を向上させる研究が盛んである。しかし、学習効果を向上させるために効果的な聴覚フィードバックの条件は未だ明らかではない。本研究ではVR環境において上肢運動の学習を支援するため、聴覚フィードバックの音の設計について着目し、運動の記憶しやすさに基づく設計指針を明らかにすることを目的とし被験者実験を行った。

## 10. 密度汎関数法による第一原理計算

東京大学大学院工学系研究科修士2年  
松田 仁

第一原理計算とは、できるだけ少数の実験的定数に基づき、物質の性質を非経験的に計算することである。しかしながら、物質中には多くの電子や原子核が存在し、それら全ての状態を直接計算することは容易ではない。そこで、第一原理計算には物質の電子密度に着目した密度汎関数理論がよく用いられ、数多くの成功を取っている。本発表では、密度汎関数理論の概要に加えて、具体的な計算例や実験による測定値との比較などを説明する。

## 11. UV駆動光反応への応用に向けた可視—紫外アップコンバージョンを示す多孔質モノリス材料

九州大学大学院工学府応用化学専攻修士2年  
中川 さくら

アップコンバージョン (UC) は、高いエネルギーの光子を低いエネルギーの光子に変換する方法論である。UCの発生には分子の拡散と衝突が必要であるため、これまでは実用性に欠ける溶液中での報告がほとんどであった一方、実用化には固体系材料の開発が求められてきた。本研修会では、高比表面積を有する可視光から紫外光へのUCが可能な固体材料の開発、およびそれを用いた光反応への応用について紹介する。

## 12. 領域特化型LLM開発における事前学習とRAGの活用

東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報科学専攻修士1年  
仲西 優貴

大規模言語モデル (LLM) の発展がめざましく、特に最近では様々なベンチマークで大幅な精度向上を達成している。しかし、汎用モデルは専門用語や文脈理解の面では回答精度の低さが課題となる。特に私が現在取り組んでいる、全固体電池に特化したLLMの開発においては、モデル自身に材料科学分野の学習をさせて高度な専門知識を習得させることは不可欠である。本発表では、LLMの精度向上手法である「RAG (検索拡張生成)」と「継続事前学習」について紹介する。

## 13. 2つの視点から見た環境調和的アンモニア合成の概説

東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻修士1年  
山本 颯真

アンモニアは肥料の原料をはじめ、工業的に重要な合成原料である。しかし現在の工業的製法であるハーバー・ボッシュ法は化石燃料を利用した高温・高圧を要する環境負荷が大きいシステムであり、環境調和的なアンモニア合成法が強く望まれている。常温・常圧での温和な条件下のアンモニア合成について、Mo錯体をはじめとした窒素固定触媒およびPCET反応触媒の2つの視点から自身の研究内容を交えて説明する。

## 14. 「人工衛星の作り方」 ～姿勢系編～

東京大学工学部航空宇宙工学科4年  
方倉 颯馬

GPSから通信インフラ、天気予報まで、今や人々の生活に欠かせない存在となっている人工衛星。しかしそれらは全て、私たち人間が一つ一つ作り上げている「モノ」なのである！つまり、人工衛星にも「作り方」なる指南書が存在するはずである！...ということで今回は、人工衛星設計がどのように役割分担されるかを概説したのち、人工衛星に特異なサブシステムである姿勢系について深掘りしていく。乞うご期待！

## 15. カントの「国際法」論

東京大学法学部4年  
小淵 朝陽

近代哲学者イマヌエル・カント (1724年-1804年) は、『人倫の形而上学』(1797年)の「第一部 法論の形而上学的原理」において、自身の哲学の中で初めて本格的に法を体系化して論じました。本発表では、来年度以降に私の専門分野となる国際法に焦点を当て、同書を手がかりにカントの「国際法」論がどのような特徴を持つのか、またその議論が現代の国際法学にどこまで射程を及ぼしうるのかを検討します。

## 16. ミャンマー危機下における日中政策比較分析

慶應大学商学部商学科2年  
宇田川 樟

2021年2月に発生した軍事クーデターにより、ミャンマーを取り巻く環境は一変した。本発表では、1948年の独立以降の日中の対ミャンマー外交政策を比較し、現実の危機を前にして、両国の対照的な外交ドクトリンが露呈した問題点について分析する。その上で、クーデター発生から5年弱を経て事態が長期化する中、転換期を迎えている両国の方針を検証し、日本が今後果たすべき役割について提言する。

## 17. 北朝鮮の東アジア生存戦略2014—北朝鮮はなぜ日本とロシアに接近したのか—

慶義塾大学法学部政治学科4年  
大場 雅翔

北朝鮮は核ミサイル開発のような軍事行動による瀬戸際外交を展開してきた。自国の体制維持を政策目的に、様々な生存戦略を構築しているが、2014年は一つの転換点であった。現在の「露朝蜜月・日朝停滞」という構図とは異なり、日露への同時接近を試みたのである。北朝鮮がどのような力学に基づき、いかなる戦略的意図を持って行動したのかを分析し、現在の外交戦略に繋がる教訓を引き出す。

## 18. 音のフーリエ解析

東京理科大学理学部物理学科2年  
下田 凜歩

私たちの身のまわりには多様な音があり、その違いは波形の形や含まれる周波数によって生まれる。本研究では、音を成分に分けて理解するフーリエ変換に着目し、声や楽器音など日常的な音を対象に、時間波形と周波数スペクトルの両面から可視化を行った。音の高さや響き方がどのような物理的特徴に由来するのかを、実際の音を使って直感的に理解することを目的とし、その結果について考察した。

## 19. 低磁場ポータブルMRIの開発～磁石配置最適化から信号取得まで～

千葉大学工学部総合工学科4年  
庄子 綾乃

低磁場ポータブルMRIは、設置場所の制約が少なく、より身近な環境で利用できる医療・工学ツールとして期待されている。その実現には、強く均一な磁場を作る磁場源の設計が重要である。本研究では、小型化で生じる磁場のムラを減らすために、磁石の並べ方を数学的に最適化し、より均一な磁場源を実現した。さらに、その磁場源を用いてシステム構築を進め、MRI画像の基本となるスピンエコー信号を取得した。本発表では、磁石配置の最適化から基礎信号取得までの成果を報告する。

## 20. アオカメノコハムシの共生細菌の特殊性

東京大学理学部生物学科3年  
川上 航平

植物の持つペクチンは動物にとって消化が困難で、植物を食べる動物はペクチンを消化するための戦略を持つ。アオカメノコハムシという昆虫においては、ペクチン消化のために腸内に種特異的な共生細菌を持ち、この共生細菌はほかの種における共生細菌と異なり、宿主にペクチンの消化酵素を提供していることが分かった。また、この共生細菌においてはゲノムサイズが極端に縮小していることが分かった。本発表ではこの研究の経緯とそれが持つ意義について解説する。

## 21. くずし字を読む—徳川家光寺領寄附朱印状を題材に

東京大学文学部人文学科2年  
下川 哲史

今発表では武蔵国分寺跡資料館所蔵の徳川家光寺領寄附朱印状を題材として、古文書におけるくずし字解読の手法を紹介する。同文書は慶安元年（1648）に徳川家光が武蔵国国分寺村（現：東京都国分寺市）の国分寺に向けて発給した朱印状であり、内容は平易ながらも使用される古文書独特の表現や、崩された文字からは古文書解読の面白さを味わうことができる。また、同文書の受給者である近世の武蔵国国分寺についてもその存在形態等に迫っていきたい。

## 22. 電球1個分のエネルギーで動くAIへ ～脳を模倣するニューロモルフィック技術～

東北大学工学部電気情報理工学科3年  
大田 透人

現在のコンピュータは膨大な電力を消費しますが、人間の脳はわずか電球一個分程度のエネルギーで高度な情報処理を行っています。私はこの脳の仕組みをハードウェアで模倣した「ニューロモルフィックコンピューティング」に注目しています。これは、データが発生した時だけ回路が動作する仕組みにより、圧倒的な省電力と高速な反応速度を両立する技術です。AIや自動運転の基盤技術の一候補として注目されている、この次世代計算機の可能性についてお話します。

## 23. 観光客の財政学：「経済効果」論を越えて

東京大学経済学部経済学科4年  
広田 瑞貴

本発表は、「観光立国」政策をめぐる問題を、経済効果論を越えた合意形成の課題として検討する。観光地住民への負担集中を、広域的な便益と局所的な負担が対立するNIMBY問題と同型と捉え、その解消に行政や受益者からの「敬意の表現」と公正な手続きが不可欠であることを示す。パルセロナの参加型予算やDMOの事例を参照しつつ、財政学の視点も交え、住民の自己決定権を尊重した観光政策の合意形成のあり方を展望する。

## 24. よりよい建築設計のために

東京大学工学部建築学科2年  
津村 有

皆さんは「よい建築」と聞いてどのようなものを想像されるでしょうか。居住者の快適さを追求した建築でしょうか、それとも高度な意匠を凝らした芸術作品でしょうか。私は建築学科での学びと設計課題を通じて得た知見を基に、皆さんの身近な価値観を背景として、よりよい建築とは何かを考察いたします。本発表を通じて、建築への関心が少しでも深まれば幸いです。

## 25. EVmiRNA発現量解析による早期疾患診断

東京大学理学部生物情報科学科2年  
仲西 愛貴

ほとんどの細胞が産生し、細胞間コミュニケーションツールとして用いられていると言われる細胞外小胞(EV)。その内部には近年ノーベル賞でも話題になったmiRNAが比較的安定に存在しており、これらの核酸は疾患と深い関わりがあると考えられています。今回の発表では、EVに内包されるmiRNAの発現量からがん等の疾患を早期発見するための機械学習モデルや、バイオマーカーについて研究を通じてわかったことをお話します。



## 26. 広告に見るジェンダー観と企業イメージ戦略の変容

早稲田大学文化構想学部文科構想学科2年  
松尾 珠

本発表では、近年の広告媒体の多様化と表現の幅の拡大に伴い、本来は企業や商品の認知向上を目的とする広告が、企業イメージの構築や態度表明の手段として用いられる傾向に着目する。特にジェンダー表現やルッキズムをめぐる炎上事例等を用いて、社会的価値観との齟齬が生じる要因と広告表現に求められる倫理性について分析する。

## 27. 大学進学 of 地域格差を生む構造的要因の分析

東京大学教養学部理科二類1年  
王子田 俊太郎

地方高校生の大学進学 of 選択肢が狭まっている背景には、個人の意識差を超えた「構造的な要因」が存在する。本発表では、人口減少や東京一極集中、インフラの衰退といった複合的な社会課題が、いかにして教育・体験格差として現れているのかをデータに基づき分析する。その上で、行政や営利企業とは異なる「第3 of 立場」である学生団体が、この構造的な課題に対しどのような役割を果たせるか考える。

## 28. 地球 of コア

東京大学教養学部理科一類1年  
大塚 拓己

地球 of 中心部には、主に鉄とニッケルの合金からなる液体 of 外核と固体 of 内核が存在する。外核や内核を直接的に観測することは困難であり、地震波 of 解析などにより大まかな構造は推定されているが、未解明 of 要素が多く存在する。本発表では、核中 of 軽元素の組成と外核により作り出される地磁気 of 反転の2つを例にとり、地球 of 核の魅力やそれを調べること of 意義について述べる。

## 29. 教育は「格差」を再生産しているのか？

東京大学教養学部文科三類1年  
田中 晏愛

「教育は平等 of ための装置」と信じられているが、実際には家庭環境による格差が学校で再生産されている側面がある。本発表では、このメカニズムをブルデュー of 文化資本論やバーンステイン of 言語コード論を用いて分析する。具体的には、家庭で身につく「ハビトゥス」や言葉遣いが学力に与える影響、学校 of 「隠れたカリキュラム」の問題点を指摘する。最後に、学校と地域が連携するコミュニティ・スクールを通じた、多様な学びによる格差解消 of 可能性について考察する。

## 30. 協力ゲーム理論 of 機械学習への応用 of 紹介

東京科学大学工学院1年  
中川 英知

協力ゲーム理論 of 講義で「Shapley値」を知り、それが機械学習 of 分野でモデル of 解釈に応用されている点に興味を持った。本発表では、ブラックボックスになりがちな機械学習モデルに対して、説明可能なAI(XAI)を実現するための手法の一つとして、Shapley値 of 応用を紹介する。具体的には、簡易なモデルを自作し、実際にShapley値を計算することで、予測に対する各変数 of 寄与度を分析した。その理論とプロセス of 紹介をする。

## 31. ナミビアにみられる相互扶助とその変容について

東京大学教養学部文科三類1年  
檜崎 蓮

本研究は、ナミビアに伝統的に存在する相互扶助 of 仕組みと、その近年 of 変容を明らかにすることを目的とする。渡航前に文献調査により代表的事例を整理したうえで、現地ではフィールドワークやインタビューを通じてその実情を観察し、資本主義や市場経済 of 進出による影響を検証する。帰国後は得られた結果をもとに、資本主義社会における相互扶助 of 意義を考察する予定である。

## 32. 「月やあらぬ春や昔 of 春ならぬ」とは？

東京大学教養学部文科一類1年  
花原 美咲

今年 is 在原業平生誕1200年 of 年であるため『伊勢物語』に注目することとした。4段 of 和歌、「月やあらぬ春や昔 of 春ならぬわが身ひとつはもとの身にして」を、本居宣長は「や」を反語だと取り月も春も昔 of ままだと解釈したのに対し、研究者工藤重矩は「や」は疑問だと解釈している。私は幾つか of 点から後者のほうが妥当だと考える。しかし、和歌 of 解釈において大事なものは表面上 of 言葉の裏に隠された感情を理解することであるため、どのような思いが込められた和歌なのか、私 of 考察を紹介する。

## 公益財団法人黒田奨学会への寄付御礼

おかげさまで公益財団法人黒田奨学会は、このたび創立110周年記念の節目を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。

当奨学会は旧筑前藩主・黒田家から寄贈された基金及び不動産の資産運用益はもちろんのこと、奨学生OB・OG、黒田家関係者、当奨学会事業への理解者など多くの皆様からの寄付金により成り立っており、頂いた寄付金は奨学会の基本財産に繰り入れて基本財産の充実を図りながら、その運用益を奨学金に充てております。

令和7年度においてはお陰様で51名の方々から計1,014,874円のご寄付を頂くことができました。

当奨学会は奨学金を支給するだけでなく、特に援助を必要とする学生への入学準備金や、海外で学びたいという奨学生への海外留学支援金などの援助も行っており、これらの奨学事業には皆様からの浄財が大きく寄与していることは言うまでもありません。

黒田奨学会の理念にご賛同いただき、奨学事業の充実のためにご寄付頂きました皆様には心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

黒田奨学会出身の郷土の若者達が将来、世界や日本の社会で広く活躍するための投資とお考え頂き、今後も引き続き、寄付金募集へのご理解・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

### 令和7年度奨学会基金への寄贈者（敬称略、順不同）

令和7年4月1日～令和8年3月31日 （ ）は黒田奨学生OB、OGの卒業年

|                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| 稲 富 翔 伍 (R8卒)  | 佐 田 考 史 (H9卒)  | 牧 原 康 隆 (S51卒) |
| 井ノ口 功 基 (H28卒) | 高 尾 正 義 (S63卒) | 増 本 和 幸        |
| 井ノ口 正 浩        | 冬 至 嶺 子        | 松 崎 広 太 (R7卒)  |
| 内 田 悠 太 (H30卒) | 中 川 久 幸        | 三 角 啓 介 (H19卒) |
| 小山田 恵 美        | 中 村 義 則 (S61卒) | 森 高 英 樹 (H5卒)  |
| 小山田 莉 緒 (R6卒)  | 檜木野 介 士 (R8卒)  | 山 下 謙          |
| 川 邊 遊 (R7卒)    | 野 崎 雄 介 (H10卒) | 吉 田 隆 治        |
| 木 村 菊 子        | 林 公 隆          |                |
| 今 藤 恵 子        | 原 口 義 基 (R4年卒) | その他、匿名希望者 18名  |
| 今 藤 久 夫        | 東 開 土 (R8卒)    |                |
| 権 藤 洸 人 (R8卒)  | 平 地 康 一 (H20卒) |                |
| 佐々木 綾 太 (R8卒)  | 前 田 拓 也 (H7卒)  |                |
| 佐 田 裕 (S46卒)   | 牧 原 澄 子        |                |

# 令和8年度 黒田奨学会行事予定

(令和8年4月1日現在)

| 月      | 日  | 曜 日 | 内 容                                                            |
|--------|----|-----|----------------------------------------------------------------|
| 4月     | 10 | 金   | 4月分奨学金給付                                                       |
|        | 11 | 土   | 「進級を証明できる書類」提出締切 (※2年生以上、締切厳守)                                 |
|        |    |     | 光雲神社春季大祭                                                       |
|        | 25 | 土   | 九州地区奨学生研修会【前期①】                                                |
|        | 26 | 日   | 九州地区奨学生研修会【前期②】・懇親会                                            |
| 5月     | 8  | 金   | 5月分奨学金給付                                                       |
|        | 23 | 土   | 関西地区奨学生研修会【前期】・懇親会                                             |
|        | 29 | 金   | 第1回定例理事会                                                       |
| 6月     | 6  | 土   | 関東地区奨学生研修会【前期】・懇親会                                             |
|        | 10 | 水   | 6月分奨学金給付                                                       |
|        | 15 | 月   | 定時評議員会 (議題：決算報告)                                               |
|        | 19 | 金   | 瑞藤会会報100号発行                                                    |
| 7月     | 10 | 金   | 7月分奨学金給付                                                       |
| 8月     | 4  | 火   | 長政公403回忌法要 (崇福寺)                                               |
|        | 10 | 月   | 8月分奨学金給付                                                       |
|        | 12 | 水   | 事務局夏季休暇 (12日～16日)                                              |
| 9月     | 10 | 木   | 9月分奨学金給付                                                       |
|        |    |     | 2027年度 一般学部募集要項その他書類一式・HP公開<br>前期成績表・報告書・GPA提出 ※9/8受付開始～9/19締切 |
|        | 18 | 金   | 2027年度 大学院特定枠 (九大・九工大) 募集推薦依頼書送付                               |
| 10月    | 6  | 火   | 光雲神社秋季大祭                                                       |
|        | 9  | 金   | 10月分奨学金給付                                                      |
|        | 24 | 土   | 九州地区奨学生研修会【後期①】                                                |
|        | 25 | 日   | 九州地区奨学生研修会【後期②】・懇親会                                            |
| 10月中旬頃 |    |     | 2026年度瑞藤会総会 (予定)                                               |
| 11月    | 10 | 火   | 11月分奨学金給付                                                      |
|        | 21 | 土   | 関西地区奨学生研修会【後期】・懇親会                                             |
| 12月    | 5  | 土   | 関東地区奨学生研修会【後期①】                                                |
|        | 6  | 日   | 関東地区奨学生研修会【後期②】・懇親会                                            |
|        | 10 | 木   | 12月分奨学金給付                                                      |
|        | 17 | 木   | 瑞藤会会報101号発行                                                    |
|        | 29 | 火   | 事務局冬季休暇 (29日～1/5日)                                             |
| 1月     | 6  | 水   | 事務局業務開始日                                                       |
|        | 8  | 金   | 1月分奨学金給付                                                       |
|        | 22 | 金   | 2027年度 新奨学生 (一般学部) 願書応募フォームHP公開                                |
|        | 31 | 日   | 2027年度 一般大学院願書受付締切<br>2027年度 新奨学生 (一般学部・一般大学院・大学院特定枠) 願書受付締切   |
| 2月     | 10 | 水   | 2月分奨学金給付                                                       |
|        | 12 | 金   | 2027年度 新奨学生 (一般学部) 書類選考判定会議<br>忠之・光之・治高公法要 (東長寺) 忠之公374回忌      |
|        | 15 | 月   | 2027年度 新奨学生 (一般学部) 書類選考結果通知・面接案内                               |
|        | 20 | 土   | 第2回定例理事会 (議題：2027年度予算)                                         |
|        | 28 | 日   | 2027年度 新奨学生 (大学院特定枠) 面接・プレゼン選考会                                |
|        |    |     |                                                                |
| 3月     | 6  | 土   | 2027年度 新奨学生 (一般学部) 面接選考会①                                      |
|        | 7  | 日   | 2027年度 新奨学生 (一般学部) 面接選考会②                                      |
|        |    |     | 2027年度 新奨学生選考会議 (一般学部・大学院特定枠/一般枠)                              |
|        | 9  | 火   | 理事会 (新奨学生採用決定者承認)                                              |
|        | 10 | 水   | 3月分奨学金給付                                                       |
|        |    |     | 2027年度 新奨学生 (一般大学院) 採用者結果通知                                    |
|        | 11 | 木   | 2027年度 新奨学生 (一般学部・大学院特定枠) 採用者発表 (HP)                           |
|        | 13 | 土   | 後期成績表・報告書・GPA提出 ※3/13受付開始～3/27締切                               |
|        | 20 | 土   | 如水公424回忌法要 (崇福寺)                                               |
|        | 21 | 日   | 2026年度 卒業記念会・卒業祝賀会                                             |
|        |    |     | 2027年度 新奨学生入会式                                                 |
|        | 22 | 月祝  | 研修会                                                            |

## 編集後記

---

私事ではございますが、このたび3月末をもちまして九州大学を定年退職し、岡本順子先生（元常務理事）の後任として、4月より黒田奨学会常務理事（教育指導担当）に就任いたしました。微力ではございますが、誠心誠意努めてまいる所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、常務理事就任後、本会報の編集を重藤理事長と共に担当することとなりました。1976（昭和51）年5月1日に第1号が発行されて以来、本号は第100号という節目を迎えることとなります。記念号として特別な編集を行うことも検討いたしましたが、あえて通常号として発行することにいたしました。

冒頭には黒田長高総裁の近況報告を掲載し、続く奨学生OB・OG通信では、久保田康史氏（東京地区担当の元理事）ならびに松藤圭亮氏にご寄稿いただきました。100号にふさわしい充実した内容となりましたことを、大変ありがたく存じております。ご多忙の中、ご寄稿くださいました長高様、久保田様、松藤様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、この春に社会へ巣立った学部卒業生・大学院修了生19名からは、当会への感謝の言葉と、今後の社会貢献への抱負を寄せていただきました。新たに31名（学部生24名、特定枠大学院生7名）が入会し、奨学生数は125名と過去最多となりました。新奨学生の寄稿文から、1人ひとりの熱意や志を感じ取っていただければ幸いです。

先日、大野城心のふるさと館を訪れる機会がありました。本館3階「ふるさとラボ」には、目加田ご夫妻（誠先生・さくを先生）の寄贈図書コーナーが設けられています。さくを先生（1917～2010）は、長年にわたり当会理事をお務めくださった先生であり、ご存じの会員も多いかと存じます。日本文学研究、とりわけ源氏物語等の平安文学研究の草分け的存在として、福岡女子大学・梅光女学院大学教授としてご活躍されました。

「ふるさとラボ」に展示された先生の温かな写真を前に、奨学会でご指導いただいた日々を懐かしく思い返しながらか、常務理事就任のご報告と、現在の奨学会の様子を心の中でお伝えいたしました。先生が東京地区で始められた研究発表会（現在の研修会）は、今日では本会の特色ある事業の一つとして、九州・関西地区にも広がっています。奨学生同士の異分野交流や親睦を深める貴重な機会となっており、改めて、さくを先生のご功績の大きさを感じております。

最後になりますが、次号101号（令和8年12月発行予定）からは、新たな企画記事も取り入れながら、瑞藤会会員相互の交流の場として、より親しみやすい会報づくりに努めてまいりたいと考えております。ぜひ皆様のご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（渡邊 幸信）



## 公益財団法人 黒田奨学会に対する寄付継続のお願い

瑞藤会の皆様には、日頃より当奨学会の事業にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様から頂戴した寄付金は奨学会の基本財産として奨学事業に有効に活用させていただきます。

引き続き、寄付金募集へご協力賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付頂ける方で、ゆうちょ銀行利用の場合は、下記の払込用紙をご利用ください。払込手数料は無料です。なお、黒田奨学会OB・OG(瑞藤会会員)の方はおなまえ欄の下に大学卒業年度(学部)をお書きください。

右の払込用紙は切り取らずに二票とも窓口にお出しく下さい。

| 払込取扱票                                  |              |        |  |  |  |  |  |  |     | 通常払込料金加入者負担     |  |  |  |
|----------------------------------------|--------------|--------|--|--|--|--|--|--|-----|-----------------|--|--|--|
| 02 福岡                                  |              | 口座記号番号 |  |  |  |  |  |  |     | 金額              |  |  |  |
| 017405                                 |              | 129327 |  |  |  |  |  |  |     | 千 百 十 万 千 百 十 円 |  |  |  |
| 加入者名                                   | 公益財団法人 黒田奨学会 |        |  |  |  |  |  |  | 料金  | 備考              |  |  |  |
| ※                                      | ご依頼人・通信欄     |        |  |  |  |  |  |  | 日附印 |                 |  |  |  |
| 貴奨学会会報等で寄付者名の記載は(承諾する・匿名希望)            |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |
| (紹介者: )                                |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |
| おなまえ                                   |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |
| 様                                      |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |
| (ご連絡先電話番号 - - )                        |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |
| 裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号福第13254号) |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |
| これより下部には何も記入しないでください。                  |              |        |  |  |  |  |  |  |     |                 |  |  |  |

## 振替払込請求書兼受領証

| 口座記号番号 |  | 017405          |  |  |  | 通常払込料金加入者負担 |  |  |  |
|--------|--|-----------------|--|--|--|-------------|--|--|--|
| 加入者名   |  | 公益財団法人 黒田奨学会    |  |  |  | 金額          |  |  |  |
| 金 額    |  | 千 百 十 万 千 百 十 円 |  |  |  | おなまえ        |  |  |  |
| ご依頼人   |  | 様               |  |  |  | 日 附 印       |  |  |  |
| 料 金    |  | 日 附 印           |  |  |  | 備考          |  |  |  |
| 備考     |  |                 |  |  |  |             |  |  |  |

この受領証は、大切に保管してください。

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになる場合は、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・払込みの際、法令等に基づき、運転免許証等、顔写真付きの公的証明書類のご提示をお願いする場合があります。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

課税相当額以上

貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

ご寄付頂ける方で、西日本シティ銀行利用の場合は、下記の振込用紙をご利用ください。

①西日本シティ銀行の本支店窓口での払込手数料は無料です。

②ATMまたはIBから振込いただく場合は、恐れ入りますが振込手数料をご負担ください。

振込金  
(兼手数料)

|       |                |      |         |
|-------|----------------|------|---------|
| 年 月 日 |                |      |         |
| 金 額   | 百万             | 千    | 円       |
| 先方銀行  | 西日本シティ銀行 赤坂門支店 |      |         |
| お受取人  | 普通預金           | 口座番号 | 3154493 |
| ご依頼人  | 公益財団法人 黒田奨学会 様 |      |         |
| 〔備考〕  | 手数料            |      | 免除      |
|       | 様              |      |         |

上記の金額正に受取りました。

上記の金額正に受取りました。

| 取         | 入  | 紙 |
|-----------|----|---|
| (取扱店)     | 銀行 | 店 |
| (取扱店→依頼人) |    |   |

振 込 依 頼 書

|         |                                                                         |      |                 |                                              |                            |                                   |                                |
|---------|-------------------------------------------------------------------------|------|-----------------|----------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| （依頼）日   | 年                                                                       | 月    | 日               | 電 信 報                                        |                            | 手数料                               | 免除                             |
| 先方銀行    | 西日本シティ銀行 赤坂門支店                                                          |      |                 | 金額                                           | 円                          | 千                                 | 円                              |
| お 受 取 人 | 預金種目                                                                    | 口座番号 | 3154493         | 現金                                           |                            |                                   |                                |
|         | (フリガナ) コウエキサイザンホウジン クロダシヨウカクカイ<br>(おなまえ)                                |      |                 | 内 当手枚<br>他手枚                                 |                            |                                   |                                |
| ご 依 頼 人 | 公益財団法人 黒田奨学会 様                                                          |      | 金 種 内 訳         | 10,000<br>5,000<br>1,000<br>500<br>100<br>50 | 円<br>円<br>円<br>円<br>円<br>円 | 0<br>000<br>000<br>000<br>00<br>0 | 0<br>5<br>1<br>0<br>合 計<br>つり銭 |
|         | (おとこころ) (電話) 092 - 712 - 0597<br>〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目2番11号<br>富士ビル赤坂7階 |      | 収 納 印 または 振 替 印 |                                              |                            |                                   |                                |
|         | (フリガナ) (おなまえ) 様                                                         |      |                 |                                              |                            |                                   |                                |
|         | (おとこころ) (電話) 様                                                          |      |                 |                                              |                            |                                   |                                |

○西日本シティ銀行支店御利用の場合は手数料は不要です。

(取扱店保管)

## 瑞藤会会報 第100号

発行日 令和8年6月19日

発 行 公益財団法人 黒田奨学会  
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目2-11  
富士ビル赤坂7階E号室  
TEL 092-712-0597 FAX 092-714-7304  
E-mail:office@kuroda-s.or.jp  
:info@kuroda-s.or.jp (奨学生用)  
<http://www.kuroda-s.com/>

責任者 重藤 健士

印刷所 誠文社印刷